

CONTENTS — 2026年9月

SIRBIM Ver.4 リリースのお知らせ

Ver.3 からの新機能の追加、処理速度の改善およびバグ修正等を行いました（全45項目）。

入力 8項目

01	3D表示：壁開口部を空けることができるよう設定を追加	3
02	部材定義：新規符号作成時のデフォルト設定の追加	4
03	差分更新：通り軸数（X/Y）の減少に対応	6
04	差分更新：差分情報のログ出力に対応	8
05	部材配置：ブレース配置の高速化に対応	9
06	部材配置：大梁のカットオフ筋長さ「0」時の扱いを変更	9
07	部材配置：大梁のミラー配置へ対応	10
08	既製品柱脚定義：ベースパック ST0335-01（F2・F3・F4）を追加	11

インポート／エクスポート 7項目

09	FromSS7：芯鉄筋タイプ-2, -1を柱主筋2段筋で変換するよう対応	12
10	FromSS7：小梁指定した S 大梁を小梁として変換	13
11	FromSS7：弱軸 H の変換に対応	13
12	FromSS7：ミラー配置の大梁変換に対応	14
13	From CREA：垂直ブレースとして変換する設定を追加	14
14	To ST-Bridge：ブレース開始終端節点をすべて異なる節点番号で出力	15
15	To Tekla：スラブの梁芯／梁面出力を RC・S で個別に指定可能へ変更	15

リスト図 7項目

16	柱・梁リスト：作図位置（中央）の変更	16
17	柱リスト：芯鉄筋の組立筋の作図	16
18	柱リスト：鉄筋本数・2段筋表記（+または／）の設定を追加	17
19	柱リスト：2段筋記号「< >」の追加	18
20	梁リスト：上下アキ寸法の追加	19
21	梁リスト：2、3段筋の中子筋優先取りつき作図	20
22	梁リスト：3断面のL=C／C=Rを2断面の追加	21

CONTENTS（続き）

リスト図（続き） 6項目

23	鉄骨部材リスト：鋼材記号囲み△の追加	22
24	大梁文字リスト：継手符号列の追加	23
25	文字リスト：ダミーフロアを作図対象としない変更	24
26	基礎断面リスト：柱型表示高さの追加	25
27	符号別リスト幅設定：基礎・杭の追加	26
28	構造図：図面縮尺表示「/」の追加	26

構造図 11項目

29	構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定を追加	27
30	構造図初期値設定：レベル表示の位置・付加記号の指定を追加	28
31	伏図：柱梁芯線図の作図	33
32	柱・梁キープランの作図	34
33	伏図：レベル表示設定に一括ON／OFF追加	35
34	伏図：勾配の表現を「～」に変更	35
35	S造伏図：板厚表現の選択を追加	36
36	架構詳細図：直交梁の表現を変更	37
37	RC架構詳細図：梁2・3段筋のヒゲ筋の作図を追加	38
38	S架構詳細図：基礎部分RC部材（基礎、基礎柱、基礎梁）の作図に対応	38
39	架構詳細図：層・フレームの分断に対応	39

CAD出力 5項目

40	AutoCAD変換：符号とレベルのレイヤー分け	40
41	AutoCAD変換：文字オブジェクト項目名の変更	40
42	AutoCAD変換：ビッグフォントへ対応	41
43	Jw_cad変換：色No対応色の可視化	41
44	DRA-CAD変換：レイヤー名を追加	41

数量 1項目

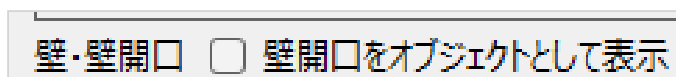
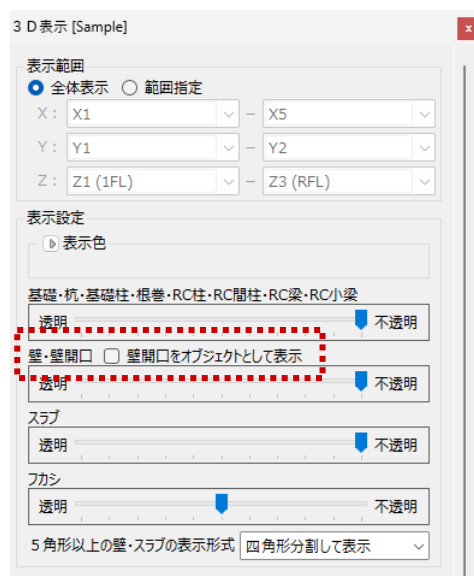
45	数量算出：個別数量入力に対応	42
----	----------------------	----

入力

3D表示：壁開口部を空けることができるよう設定を追加

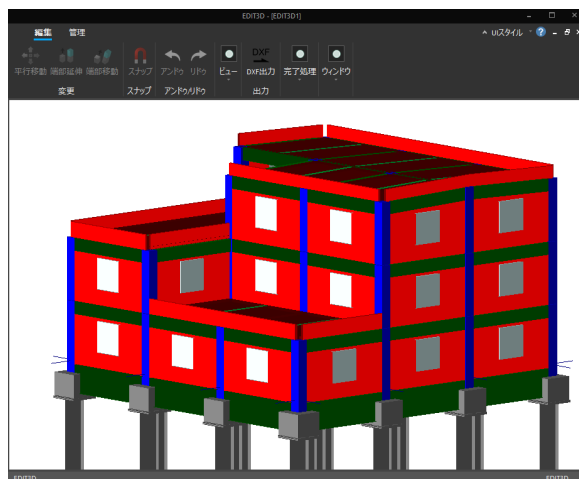
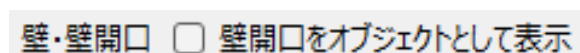
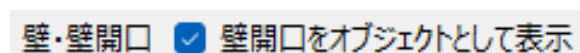
操作メニュー：SIRBIM [確認] - [モデル確認] - [3D表示]

3D表示の表示設定に「壁開口をオブジェクトとして表示」を追加しました。

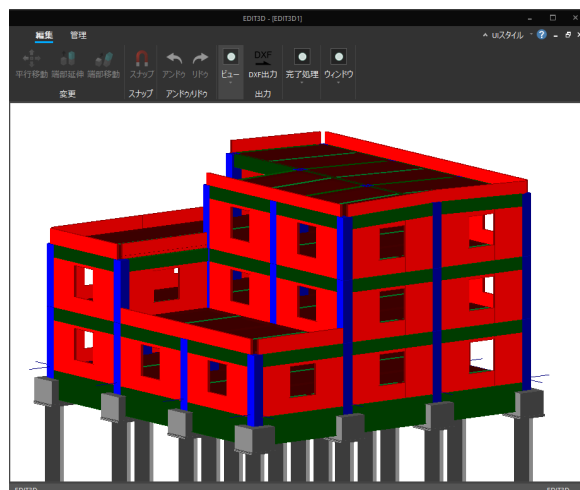


拡大：「壁開口をオブジェクトとして表示」

[3D表示] 表示設定に追加した項目



壁開口オブジェクトを表示



壁開口オブジェクトの表示なし
(開口で壁を縦に分割して表示)

部材定義：新規符号作成時のデフォルト設定の追加

操作メニュー：SIRBIM [部材定義] - [デフォルト設定] - [部材定義のデフォルト]

各部材定義で新規符号を作成する際の自動入力値を、あらかじめ指定できるようにしました。
基礎地業の情報が計算ソフトからのインポートで変換されない場合、計算ソフトから変換された符号の初期値となります。

部材定義デフォルト設定 [Sample]				
基礎 柱 梁 スラブ 表示倍率 100%				
部材定義の初期値	基礎地業厚	捨てコン厚	mm	50
		グリ厚	mm	100

基礎タブ：基礎地業厚・地業種別の初期値

部材定義デフォルト設定 [Sample]				
基礎 柱 梁 スラブ 表示倍率 100%				
部材定義の初期値	柱・間柱	主筋径		D25
		帯筋径		D13
		帯筋X本数	本数	2
		帯筋Y本数	本数	2
		帯筋ピッチ	mm	100
自動入力設定	柱・間柱	複数断面時の上行の値の自動入力		する
		⇒ 2 段筋の本数自動入力		しない

柱タブ：柱・間柱の主筋径／帯筋径・本数・ピッチと自動入力設定

部材定義デフォルト設定 [Sample]				
基礎 柱 梁 スラブ 表示倍率 120%				
部材定義の初期値	床種別			床版(一般型枠)
	床厚	中央部	mm	150
	配筋	配筋タイプ		ダブル
	端部	径1		D10
		ピッチ	mm	200
	中央部	径1		D10
		ピッチ	mm	200
自動入力設定	複数行入力時の上行の値自動入力			する
	端部の入力値を中央に値自動入力			する
	端部の入力値をAx/Ayに自動入力			する

スラブタブ：床種別・床厚・配筋の初期値と自動入力設定

部材定義：新規符号作成時のデフォルト設定（各タブの拡大・続き）

部材定義デフォルト設定 [Sample]													
基礎		柱	梁	スラブ		表示倍率							
部材定義の初期値		(片持) 基礎梁		主筋径				D25					
				肋筋径				D13					
				肋筋本数			本	2					
				肋筋ピッチ			mm	200					
		(片持) 大梁		主筋径				D25					
				肋筋径				D13					
				肋筋本数			本	2					
				肋筋ピッチ			mm	100					
		(片持) 基礎小梁		主筋径				D25					
				肋筋径				D13					
				肋筋本数			本	2					
				肋筋ピッチ			mm	200					
		(片持) 小梁		主筋径				D25					
				肋筋径				D13					
				肋筋本数			本	2					
				肋筋ピッチ			mm	100					
自動入力設定		(片持) 基礎梁・大梁		複数断面時の上行の値の自動入力				する					
				⇒ 2 段筋以降の本数自動入力				しない					
		(片持) 基礎小梁・小梁		複数断面時の上行の値の自動入力				する					
				⇒ 2 段筋以降の本数自動入力				しない					

梁タブ：基礎梁・大梁・基礎小梁・小梁ごとの主筋径／肋筋径・本数・ピッチ

上記設定の適用例

No	符号	構造	位置	形状		ハンチ	肋筋(S:スパイラル C:閉鎖型)						腹筋				
				B	D		径		径	本数	タイプ S/C	ピッチ	段数	径			
							太	細							[mm]	[mm]	[mm]
				[mm]	[mm]	[mm]					[本]		[mm]	[段]			
1	B1	RC	A	300	600		D16	D10		2		150	1	D10			
2	B99	RC	A	350	700		D16	D13		2		100					

小梁定義に新規で「B99」を定義した例です。主筋径や肋筋情報がデフォルト設定となります。

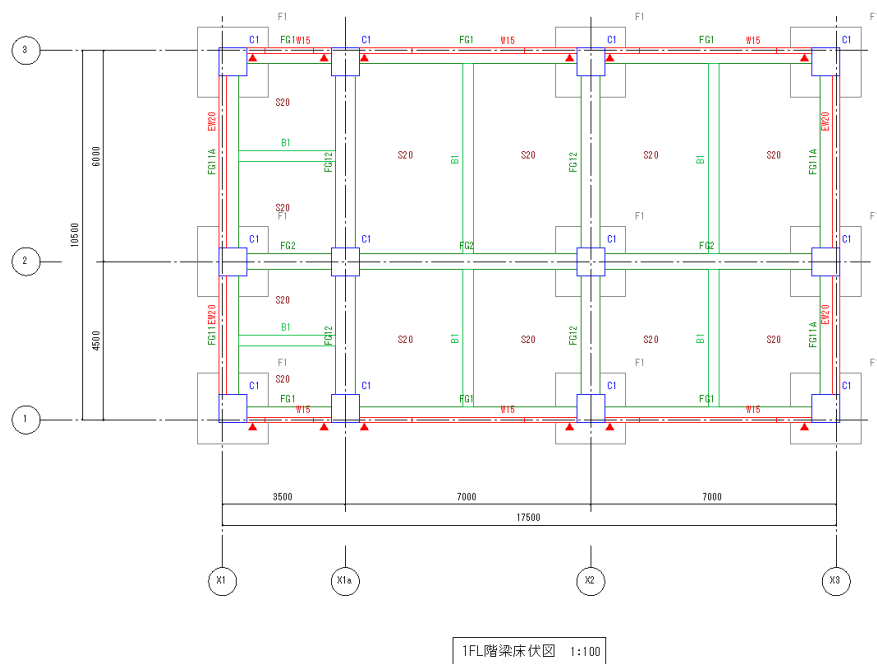
差分更新：通り軸数（X/Y）の減少に対応

操作メニュー：SIRBIM [建物形状] - [通り軸名] / [差分更新]

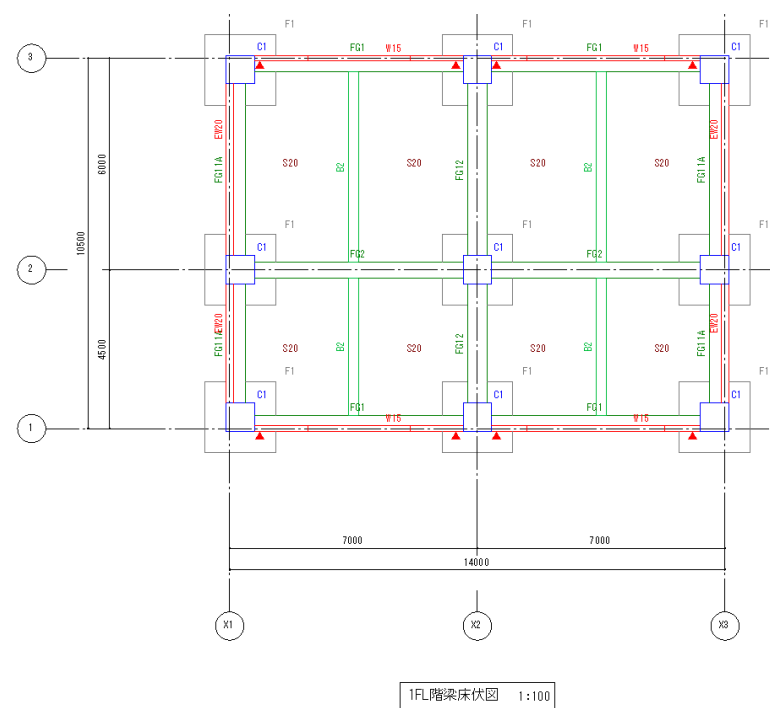
更新JOBに対して、差分JOBで通り軸数（X、Y）が減少した場合の差分更新に対応しました。

通り軸数の減少に伴い更新JOBと差分JOBで通り軸のマッチングを行います。

マッチングした通り軸の部材同士で配置を比較して差分更新を実行します。



更新JOB（Base）：X1・X1a・X2・X3の4軸

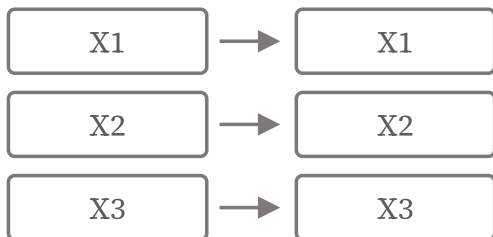


差分JOB（変更）：X1a 軸を削除した3軸 — 削除された X1a 軸上の部材をどの軸へ引き継ぐかを指定します

参考 ① 通り軸数が同じ場合

軸名が一致するため、マッチング不要

更新JOB (3軸)



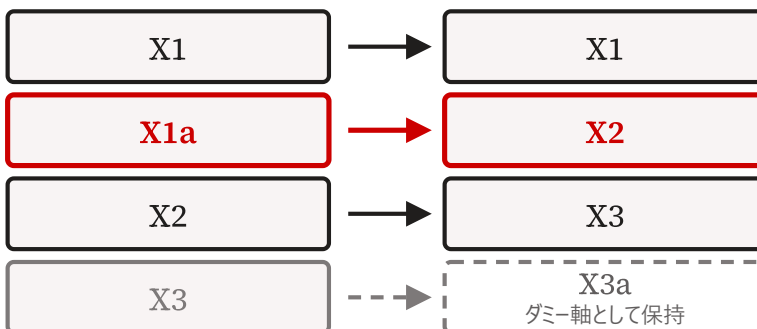
→ 同名の軸どうしを比較して差分更新

従来：通り軸数が同じであれば同名の軸どうしを自動で比較

今回の対応 ② 通り軸数が減少した場合

[通り軸更新設定] で対応する軸を指定してから差分更新します

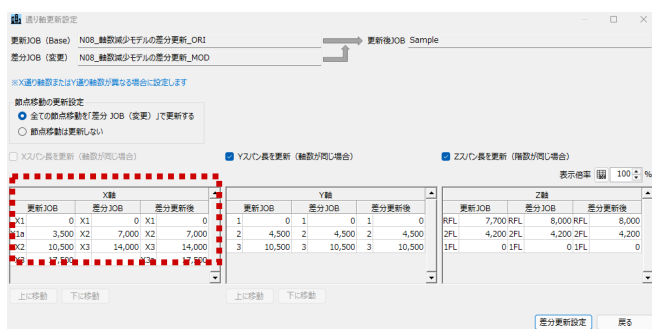
更新JOB (4軸)



→ 指定した対応軸どうしで部材を比較して差分更新

→ X1-Y1 交点は原点として固定 (変えずにマッチング)

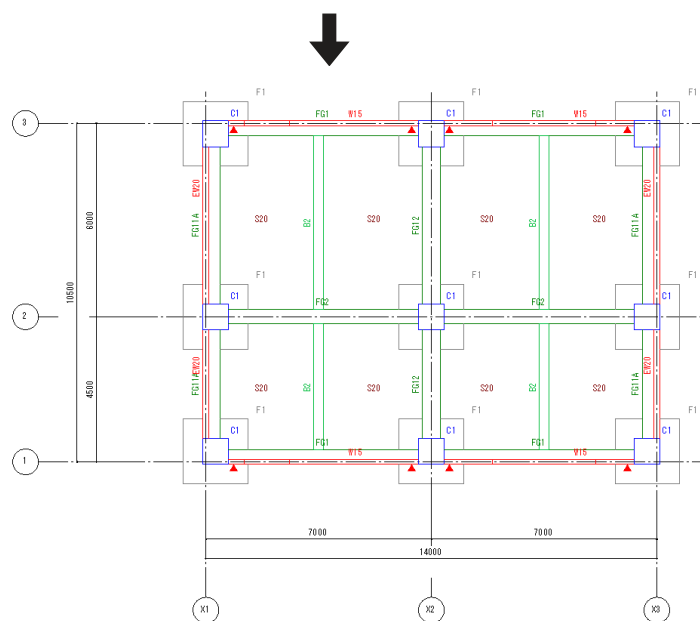
目的：配置 GUID を保持したまま差分更新する



X軸					
更新JOB		差分JOB		差分更新後	
X1	0	X1	0	X1	0
X1a	3,500	X2	7,000	X2	7,000
X2	10,500	X3	14,000	X3	14,000
X3	17,500			X3a	17,500

拡大：X 軸の対応 — X1a→X2、X2→X3 と読み替え、X3a は新規

[通り軸更新設定] 更新 JOB のどの軸が差分 JOB のどの軸に対応するかを指定します



1FL 階床伏図 1:100

差分更新の反映後：X1a 軸上の部材が X1 軸に配置される

差分更新：差分情報のログ出力に対応

操作メニュー：SIRBIM [建物形状] - [差分更新]

差分更新の内容をログ（Excel）として出力できるようにしました。

更新ログをExcelで残すことができるため、いつ・どの差分を反映したかを管理できます。

2. X軸（軸数が異なる場合）									
更新JOB			差分JOB			差分更新後			
軸名		距離	軸名		距離	軸名		距離	
X1	X1	0	X1	X1	0	X1	X1	0	
X2	X1a	3500	X2	X2	7000	X2	X2	7000	
X3	X2	10500	X3	X3	14000	X3	X3	14000	
X4	X3	17500				X4	X3a	17500	

3. Y軸（軸数が同じ場合）									
更新JOB			差分JOB			差分更新後			
軸名		距離	軸名		距離	軸名		距離	
Y1	1	0	Y1	1	0	Y1	1	0	
Y2	2	4500	Y2	2	4500	Y2	2	4500	
Y3	3	10500	Y3	3	10500	Y3	3	10500	

4. Z軸（軸数が同じ場合）									
更新JOB			差分JOB			差分更新後			
軸名		距離	軸名		距離	軸名		距離	
Z3	RFL	7700	Z3	RFL	8000	Z3	RFL	8000	
Z2	2FL	4200	Z2	2FL	4200	Z2	2FL	4200	
Z1	1FL	0	Z1	1FL	0	Z1	1FL	0	

通り軸ログ（X・Y・Z軸）：軸名と距離を 更新JOB／差分JOB／差分更新後 で対比して出力

基礎				符号		差分更新内容					識別情報		基礎			
						状態	断面寸法	配筋情報			更新実行	1 符号	2 基礎タイプ	形状		つなぎ筋
														3 基礎厚D1	4 基礎厚D2	
No	部材	構造	階	更新JOB	差分JOB	状態	断面寸法	配筋情報	更新実行		1 符号	2 基礎タイプ	3 基礎厚D1	4 基礎厚D2	5 段数	
1	基礎	RC	-	F1	F1	変更	有	有	☑	更新JOB	F1	0:直接基礎	1000	1000	3	
										差分JOB	F1	0:直接基礎	800	800	2	
										更新処理			○	○	○	

基礎定義ログ：基礎厚・段数の変更を記録

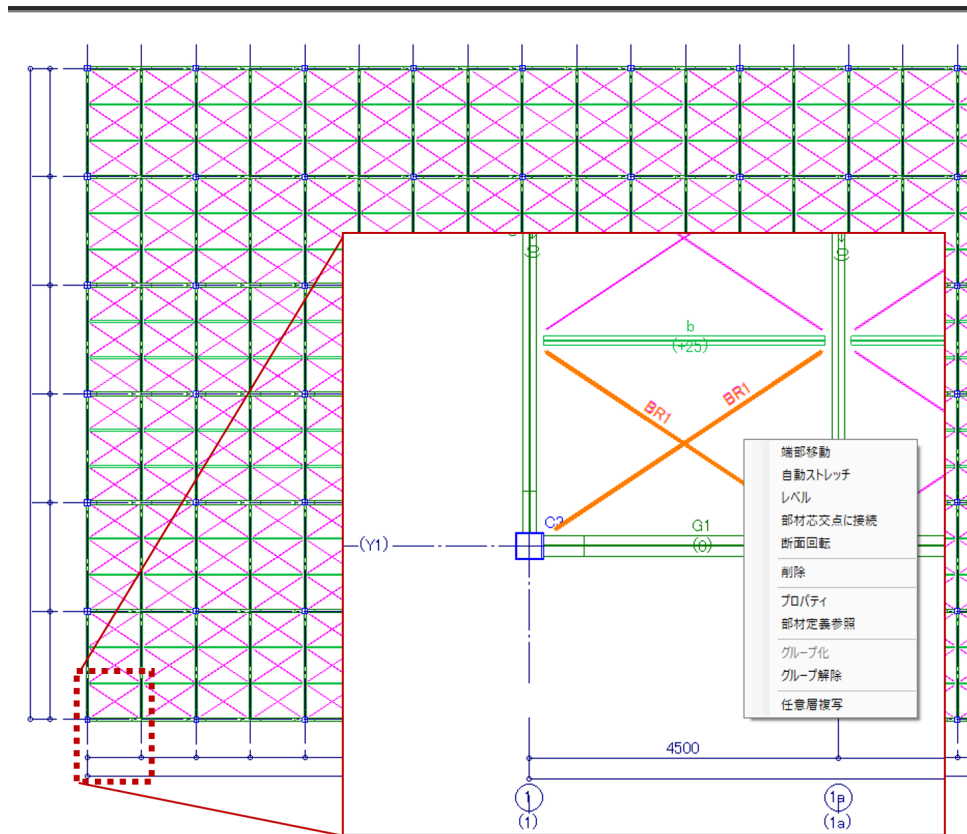
基礎梁 梁片持梁 No	部材	構造	階	符号		差分更新内容			更新実行		識別情報				
				更新JOB	差分JOB	状態	断面寸 法	配筋情 報			1 下階	2 上階	3 符号	4 構造	5 RC部材形状
1	基礎梁	RC	-	FG11		削除			☒	更新JOB	1FL	1FL	FG11	RC	A
										差分JOB					
										更新処理	○	○	○	○	○
2	梁	RC	2FL	G11		削除			☒	更新JOB	2FL	2FL	G11	RC	E
										差分JOB					
										更新処理	○	○	○	○	○

梁定義ログ：削除された基礎梁・梁を記録

部材配置：ブレース配置の高速化に対応

操作メニュー：SIRBIM [部材配置] - [伏図形式配置]

部材数が多いモデルにおける、水平ブレースの端部2点配置・領域配置・削除の処理時間を短縮しました。



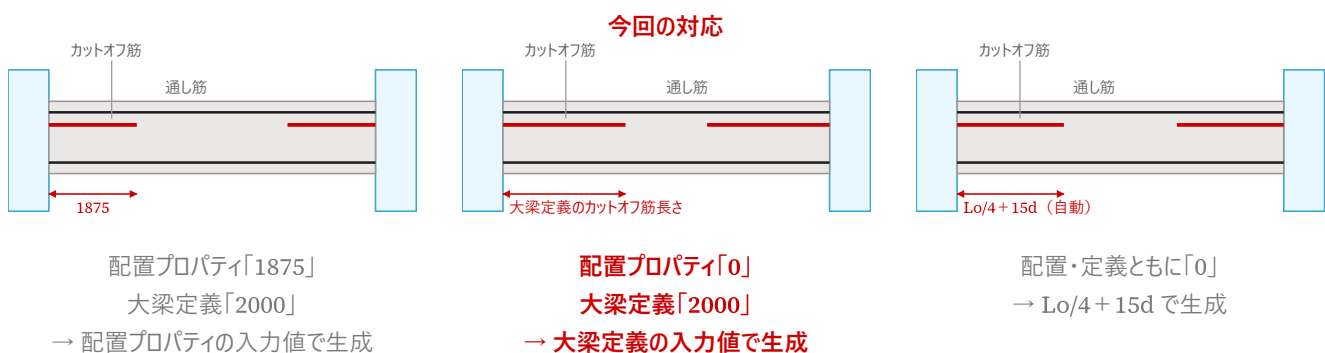
水平ブレースを多数配置した伏図。拡大部の右クリックメニューから端部移動・削除等を実行できます。

部材配置：大梁のカットオフ筋長さ「0」時の扱いを変更

操作メニュー：SIRBIM [部材配置] - [配置プロパティ]

SIRBIM では大梁のカットオフ筋長さは、大梁定義と配置プロパティの2つで入力ができます。

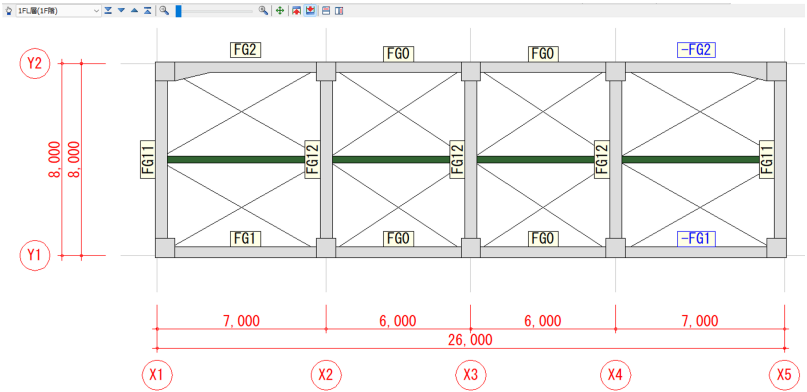
大梁定義のカットオフ筋長さは新規配置時のデフォルトとしてのみ使用されていましたが、配置プロパティが「0」の場合は大梁定義の入力値で鉄筋モデルを生成するよう対応しました。



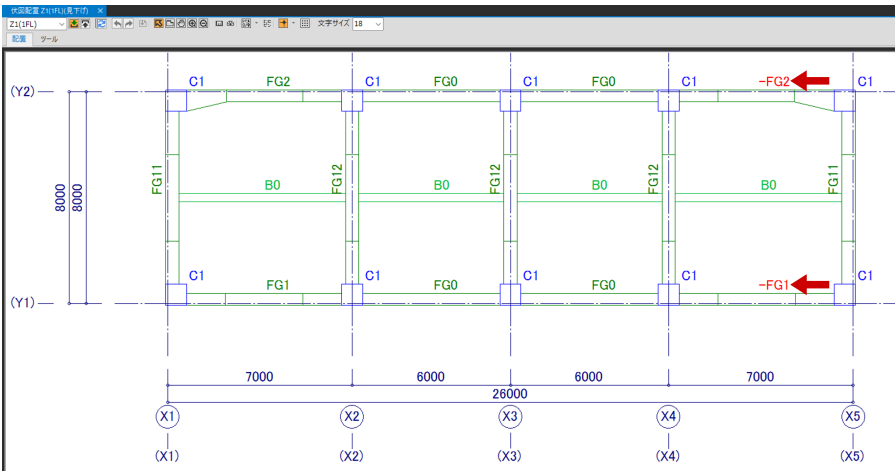
部材配置：大梁のミラー配置へ対応

操作メニュー：SIRBIM [部材配置] - [伏図形式]

SS7 でミラー配置の大梁がある場合に、符号は1つのままで通常配置とミラー配置の断面を切り替えられます。
ミラー配置の大梁は、符号の頭に「－」が付いた「－FG1」のような表記となり、文字色は赤となります。
断面リストには元の符号の断面のみが作図され、配置・構造図・数量においてミラー配置の断面・配筋として扱うことができます。



SS7：基礎梁のミラー配置例（X4-X5 間が「－FG1」「－FG2」）



識別情報	
梁符号	FG2
GUID	0F9680C
配置方向	Y軸
配置位置	
ミラー配置	する

配置プロパティ
(X4-X5 間の基礎梁「FG2」)

SIRBIM 変換後の伏図配置（ミラー配置は「－」付き・赤文字）

地中梁リスト 1:60						
符 号	FG1			FG2		
位 置	X1, X5	中央	X2, X4	X1, X5	中央	X2, X4
位 置						
B×D	450x2500			800x2500	450x2500	450x2500
上端筋	7-D25	6-D25	5-D25	7-D25	6-D25	5-D25
下端筋	7-D25	6-D25	5-D25	7-D25	6-D25	5-D25
あばら筋	□-D13 @150			□-D13 @150		
腹 筋	12-D13			12-D13		
備 考						

変換後の基礎梁リスト — 符号は「FG1」「FG2」を1つずつ作図（位置名称にミラー配置が反映）

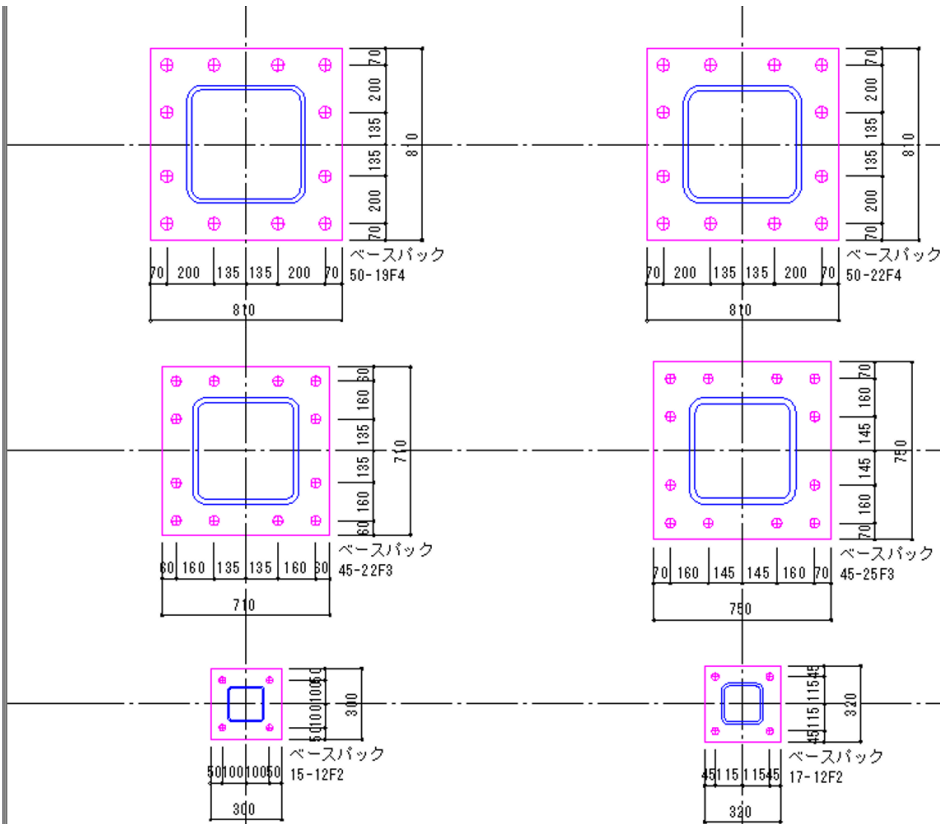
既製品柱脚定義：ベースパック ST0335-01（F2・F3・F4）を追加

操作メニュー：SIRBIM [部材定義] - [柱定義] - [既製品柱脚定義]

既製品柱脚定義に、ベースパック ST0335-01（F2・F3・F4）を追加しました。
※アンカーボルト本数16本のタイプは現状未対応です。Ver.4 リリース後に追加させていただきます。

既製品柱脚定義											
No	Z階	符号	形状 パターン	製品名	型番	下端 レベル [mm]	形状 タイプ	Bx	By	板厚	d
								[mm]	[mm]	[mm]	[mm]
1	1	c15_12F2	B	ベースパック	15-12F2		B1	300	300	28	
2	1	c17_12F2	B	ベースパック	35-12F2		B1	320	320	32	
3	1	c20_09F2	B	ベースパック	35-16F2		B1	360	360	28	
4	1	c20_12F2	B	ベースパック	35-19F2		B1	360	360	32	
5	1	c25_09F2	B	ベースパック	35-22F3		B1	420	420	32	
6	1	c25_12F2	B	ベースパック	35-25F3		B1	420	420	36	
7	1	c25_16F2	B	ベースパック	40-16F3		B1	420	420	36	
					40-19F3		B2	450	450	32	
					40-22F3						

既製品柱脚定義への追加



アンカープランによる柱脚部の作図例

インポート／エクスポート

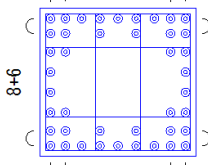
FromSS7：芯鉄筋タイプ-2, -1を柱主筋2段筋で変換するよう対応

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [From SS7]

SS7で柱断面に芯鉄筋「-2」を指定した場合は柱の2段筋、「-1」を指定した場合は1段筋の細径、「重心位置」を指定した場合は柱の芯鉄筋として変換します。

C1A：芯鉄筋位置「-2」→柱の2段筋として変換

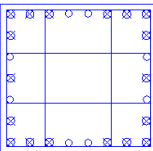
		C1A			
1FL	構造	RC		□	
	符号名	- C1A			
	主筋	8	D32	8	D32
		SD390		SD390	
		9	D32	9	D32
		SD390		SD390	
	dt1	94	94	94	94
	寄筋	等分		等分	
	芯鉄筋	4	D32	4	D32
		SD390		SD390	
	位置	-2	-2	-2	-2

符号	C1A
断面	9+6 
	8+6
主筋	42-D32

左：SS7の柱リスト／右：変換後のSIRBIM柱リスト（主筋 9+6・8+6）

C1B：芯鉄筋位置「-1」→柱の1段筋の細径として変換

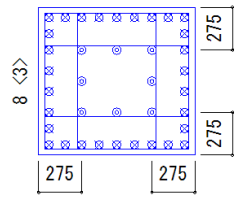
		C1B			
1FL	構造	RC		□	
	符号名	- C1B			
	主筋	5	D29	5	D29
		SD390		SD390	
		6	D29	6	D29
		SD390		SD390	
	dt1	94	94	94	94
	寄筋	等分		等分	
	芯鉄筋	2	D22	2	D22
		SD345		SD345	
		2	D22	2	D22
位置	SD345		SD345		
位置	-1	-1	-1	-1	

符号	C1B
断面	8
	
主筋	18-D29+ 8-D22

左：SS7の柱リスト／右：変換後のSIRBIM柱リスト（18-D29+ 8-D22）

C1C：芯鉄筋「重心位置」→柱の芯鉄筋として変換

		C1C			
1FL	構造	RC		□	
	符号名	- C1C			
	主筋	8	D29	8	D29
		SD390		SD390	
		9	D29	9	D29
		SD390		SD390	
	dt1	94	94	94	94
	寄筋	等分		等分	
	芯鉄筋	3	D32	3	D32
		SD390		SD390	
		3	D32	3	D32
SD390			SD390		
位置	275	275	275	275	

符号	C1C
断面	9 <3> 8 <3>
	
主筋	30-D29+ 8-D32

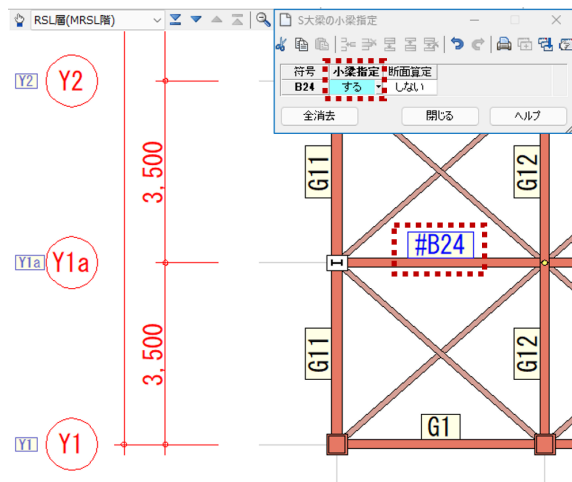
左：SS7の柱リスト／右：変換後のSIRBIM柱リスト（30-D29+ 8-D32、芯鉄筋 275）

FromSS7：小梁指定した S 大梁を小梁として変換

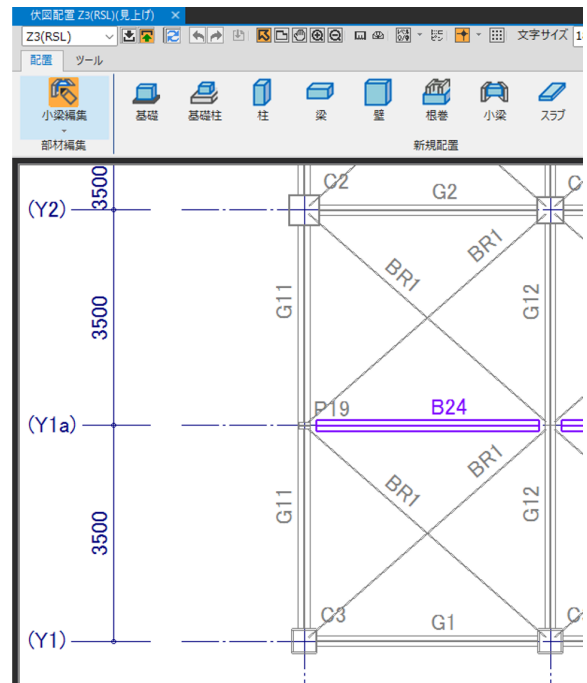
操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [From SS7]

SS7「12.10 S大梁の小梁指定」で小梁指定「する」とした大梁を、小梁として変換します。

梁の端部条件は、SS7 側で自動計算としている場合はピンで渡ります。



SS7：B24 を小梁指定「する」に設定

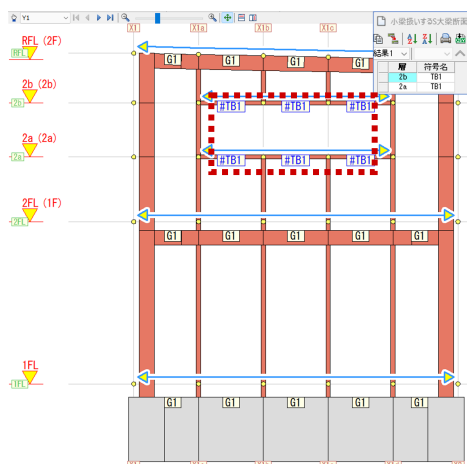


SIRBIM：B24 が小梁として変換される

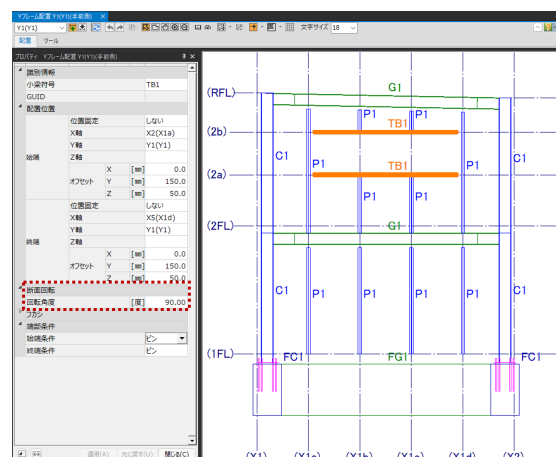
FromSS7：弱軸 H の変換に対応

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [From SS7]

SIRBIM では鉄骨大梁の配置回転角度を変更できないため、SS7「12.10 S大梁の小梁指定」の大梁で断面が「弱軸 H」の部材を、配置回転角度 90 度の弱軸 H 小梁として変換します。



SS7：小梁扱いする S 大梁断面に弱軸 H の TB1 を指定



SIRBIM：断面回転 90 度・端部条件ピンの弱軸 H 小梁として変換

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [From SS7]

チェック OFF の場合は符号はそのまま、ON の場合はサフィックスを付加した別符号を作成します。

☐ ミラー配置があった場合、サフィックスを付加し別符号を作成して変換する（BIMCAD変換用）

関連項目：部材配置：大梁のミラー配置へ対応

SIRBIM 連携などで BIM ソフトと連携する場合、ミラー配置か否かの配置情報は連携では使用されないため、SS7 変換で本設定を ON (☑あり) として変換をお願いします。

[From SS7] 変換設定

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [From CREA]

SEIN LA CREA インポート

入力データファイル 参照...

出力JOB名

出力先フォルダ 参照...

変換設定

☐ 壁厚 10.0 mm 以下は変換しない

☐ 床厚 10.0 mm 以下は変換しない

☐ レベル設定を行う

Z軸からの部材天端レベル(mm)

大端 0.0 小端 0.0 スラブ 0.0

備考に「基礎コンクリート埋込たい場合」を設定します

☐ 基礎インポート時に「基礎コンクリート」を作成して基礎、基礎スラブ (FSlab) を配置する

階高 2000.0 mm

※階高は、基礎の配置が無い場合、基礎階高が階下層以上の場合に入力値を使用します

☐ 開口定義の一般開口を窓開口で代替変換を行う

変換ルール

階高 10.0 度以上は垂直スラブで変換

☐ 垂直スラブとして認識する符号の録文数 (カンバ区切りで複数指定)

V

実行(E) 閉じる(C)

ブレース ☒ 勾配 度以上は垂直ブレースで変換
☐ 垂直ブレースとして認識する符号の頭文字（カンマ区切りで複数指定）

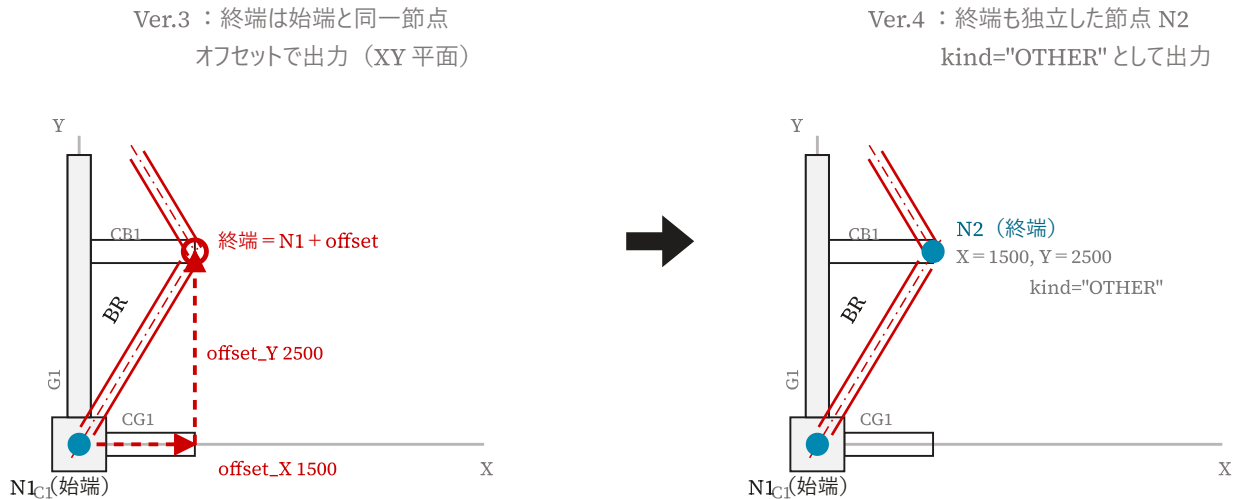
拡大：勾配（度以上を垂直ブレースで変換）／符号の頭文字による指定

[From CREA] 変換設定

To ST-Bridge：ブレース開始・終端節点をすべて異なる節点番号で出力

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [To ST-Bridge]

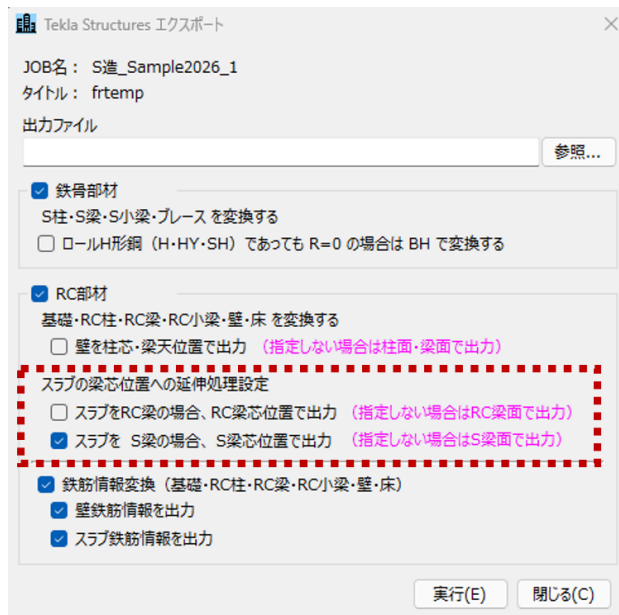
従来はスパン（X,Y,Z）の半分以下に配置されたブレースの終端を、始端のオフセットとして出力していました。
終端についても始端とは別の節点（StbNode の kind="OTHER"）で出力するよう対応しました。



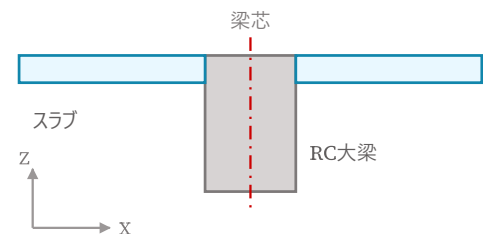
To Tekla：スラブの梁芯／梁面出力を RC・S で個別に指定可能へ変更

操作メニュー：SIRBIM [インポート／エクスポート] - [To Tekla Structures]

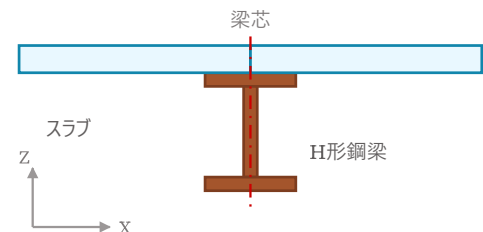
スラブ躯体を梁芯位置まで延伸するかどうかを、RC 梁・S 梁それぞれで指定できるようにしました。



エクスポート設定：RC 梁・S 梁それぞれの指定



指定なし → 梁面位置でスラブ躯体を出力



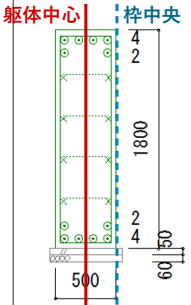
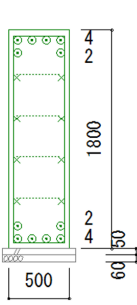
指定あり → 梁芯位置まで延伸してスラブ躯体を出力

リスト図

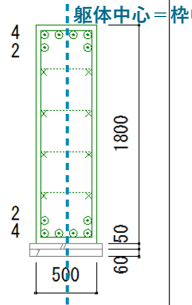
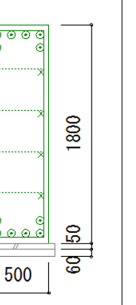
柱・梁リスト：作図位置（中央）の変更

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図]

躯体＋寸法線（または鉄筋本数）を含めた範囲を枠内中央に作図していましたが、
躯体だけで中央に作図するようにしました。柱・大梁など、その他の断面リストでも同様です。

符 号	FG1	FG11
位 置	全断面	全断面
断 面		
B x D	500x1800	500x1800
上端筋	6-D25	6-D25
下端筋	6-D25	6-D25
スターラップ	□-D13 @200	□-D13 @200
腹 筋	8-D13	8-D13
備 考		

Ver.3：躯体＋寸法線を含めて中央（躯体は枠中心から左へずれる）

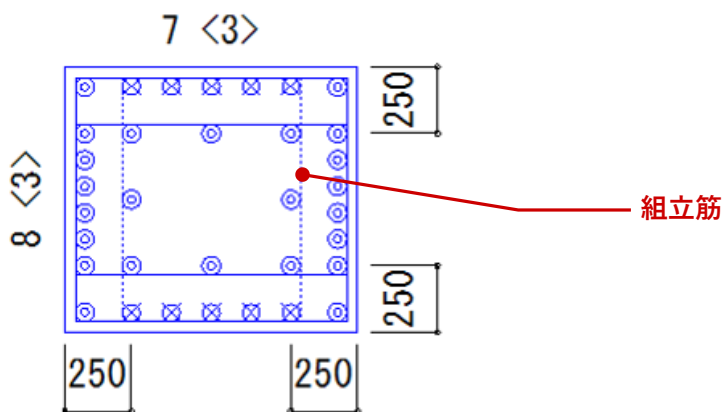
符 号	FG1	FG11
位 置	全断面	全断面
断 面		
B x D	500x1800	500x1800
上端筋	6-D25	6-D25
下端筋	6-D25	6-D25
スターラップ	□-D13 @200	□-D13 @200
腹 筋	8-D13	8-D13
備 考		

Ver.4：鉄筋本数の表記があっても躯体が枠内中央に作図

柱リスト：芯鉄筋の組立筋の作図

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図]

芯鉄筋の入力があり、掛かる中子筋がない場合に、芯鉄筋を保持する組立筋を点線で作図するようにしました。



芯鉄筋に掛かる組立筋（破線）を作図

柱リスト：鉄筋本数・2段筋表記（+または／）の設定を追加

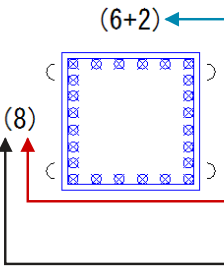
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [断面リスト作図設定] - [柱タブ]

柱断面に作図する主筋本数の表記方法を、断面リスト作図設定で選択できるようにしました。

X方向鉄筋本数を90度回転するか、2段筋を「6+2」／「6/2」のどちらで表記するか、
両端に「（）」を付加するかを、それぞれ指定できます。

共通	梁位置名称	基礎	杭	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手	鉄筋名称
		芯鉄筋を主筋欄に表示		する							
		帯筋スパイラル記号		Sを付加							
		鉄筋本数表示		X方向鉄筋本数表記	90度回転する						
				2段筋表記形式	5+2						
				両端に()を付加	付加する						

断面リスト作図設定 [柱タブ] の鉄筋本数表示

柱リスト 1:50		
階	符 号	C1
3FL	仕口部帯筋	 -D13 @100
	断 面	
		2段筋を「6+2」と表記（6/2と選択可能）
		X方向本数「8」を90度回転するで作図
		本数の両端に（ ）を付加する
	Dx × Dy	900x900
	主 筋	24-D29
	帯 筋	 -D13 @100
	備 考	

柱リストの作図例（X方向を90度回転、
2段筋「6+2」、両端に括弧付加）

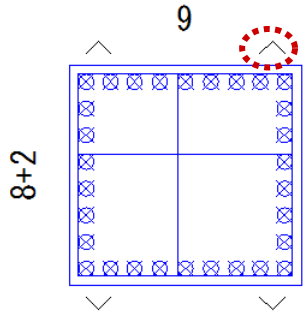
柱リスト：2段筋記号「< >」の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [断面リスト作図設定] - [共通タブ]

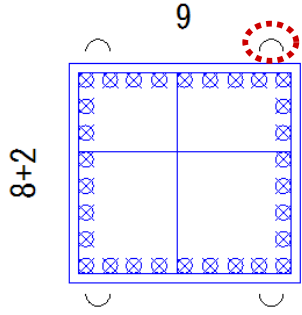
柱リストで2段筋（寄せ筋）がある場合の表現について、「（ ）」に加えて「< >」が選択可能となりました。
また、いずれの記号も端部の押さえ位置は鉄筋芯となるよう変更しました。

共通	梁位置名称	基礎	杭	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手
タイトル表示								表示する		
タイトル欄高さ						mm	10			
図面枠とタイトルのアキ						mm	10			
タイトル縮尺のアキ						mm	10			
柱・梁リストの2段筋表示記号								<>		▼
帯筋・肋筋のツメ表示								()		
鉄筋表示形式								<>		

断面リスト作図設定 [共通タブ] の「柱・梁リストの2段筋表示記号」

C3D	
□-D13 @100	
	
1000x950	
30-D29	
□-D13 @100	
□-D13 @100	

「< >」表記（今回追加）

C3D	
□-D13 @100	
	
1000x950	
30-D29	
□-D13 @100	
□-D13 @100	

「（ ）」表記（従来）

梁リスト：上下アキ寸法の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [断面リスト作図設定] - [梁タブ]

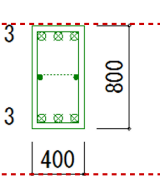
基礎梁・一般梁別に、リスト枠幅と上下のアキ寸法を指定できるようにしました。

上アキは梁上端からのアキ寸法で、上アキ揃えで作図します。

スラブを作図する場合はスラブ上端からのアキ寸法となり、スラブレベル指定は考慮されません。

下アキは、寸法線がある場合は寸法線から、ない場合は梁または地業下端からのアキ寸法です。

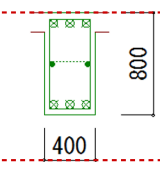
リスト枠幅の設定は、最大枠サイズを「自動計算する」とした場合は無効（自動計算値）となります。

大梁リスト 1:50		
階	符 号	G1
RFL	位 置	全断面
	位 置	
	B×D	400x800
	上端筋	3-D29
	下端筋	3-D29
	あばら筋	□-D13 @200
	腹 筋	2-D10
	備 考	

上アキ揃えで作図した大梁リスト

共通	梁位置名称	基礎	机	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手	鉄筋名称
表示形式	リスト枠（基礎）	幅	mm	50							
		上アキ	mm	5							
		下アキ	mm	5							
	リスト枠（一般）	幅	mm	30							
		上アキ	mm	5							
		下アキ	mm	5							

断面リスト作図設定 [梁タブ] の
リスト枠幅・上アキ・下アキ

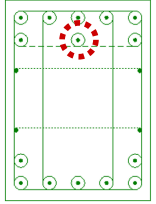
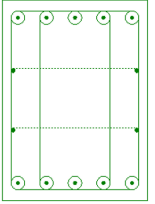
大梁リスト 1:50		
階	符 号	G1
RFL	位 置	全断面
	位 置	
	B×D	400x800
	上端筋	3-D29
	下端筋	3-D29
	あばら筋	□-D13 @200
	腹 筋	2-D10
	備 考	

スラブを作図した例（スラブ上端からのアキ寸法）

梁リスト：2、3段筋の中子筋優先取りつき作図

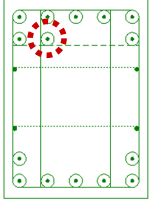
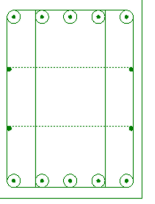
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図] - [大梁]

中子筋2本と1本が混在するモデルの場合に、2段筋位置を左右の1段筋に合わせると中子筋に取り付かないため、中子筋がある場合は中子筋優先で取り付くよう対応しました。
これに伴い、「SIRCAD作図設定」の Index92～95 を廃止しました。

階	符 号	G1	
	位 置	端部	中央
2FL	断 面		
	B x D	650x900	
	上端筋	8-D25	5-D25
	下端筋	7-D25	5-D25
	S T P	□□-U11.8 @150	
	腹 筋	4-D10	
	備 考		

従来：2段筋が中子筋に取り付かない



階	符 号	G1	
	位 置	端部	中央
2FL	断 面		
	B x D	650x900	
	上端筋	8-D25	5-D25
	下端筋	7-D25	5-D25
	S T P	□□-U11.8 @150	
	腹 筋	4-D10	
	備 考		

Ver.4：中子筋優先で取り付け

梁リスト：3断面のL=C／C=Rを2断面の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [断面リスト作図設定] - [梁タブ] ／ [梁位置名称タブ]

左端と中央、または中央と右端で断面（配筋）が同じ場合に、その2つを1つの断面にまとめて2断面として作図できるようにしました。（例：左端＝中央 → 「左端・中央」＋「右端」の2断面）
まとめた断面の位置名称は「梁位置名称」タブで指定できます。

共通	梁位置名称	基礎	杭	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手	鉄筋名称
階		階接尾文字									階
寸法表示	B×D寸法線									作図しない	
	鉄骨寄り寸法線									作図する	
	同一寸法省略									省略しない	
	捨てコン、敷砂利の寸法									作図する	
	肋筋上下かぶり厚					実寸	mm	50			
	肋筋左右かぶり厚					実寸	mm	40			
	2段筋あき					実寸	mm	40			
	2段筋以上の配筋方法									1 段筋の位置に合	
	主筋本数の表記									作図する	
	2段筋記号									作図しない	
	位置欄を各階に表記									作図しない	
	3断面のL=C／C=Rを2断面作図									作図しない	

共通	梁位置名称	基礎	杭	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手
1 断面		全断面			全断面					
2 断面①		端部			端部					
		中央			中央					
2 断面②		左端			左端					
		中央・右端			中央・右端					
2 断面③		左端・中央			左端・中央					
		右端			右端					

[梁位置名称タブ] 2断面時の位置名称

[梁タブ] 「3断面のL=C／C=Rを2断面作図」

大梁リスト 1:50

階	符号	G1			G11		
	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端
2FL	位置						
	B x D	500x850			500x850		
	上端筋	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25
	下端筋	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25
	あばら筋	□-D13 @150			□-D13 @150		
	腹筋	2-D10			2-D10		
	備考						

従来：左端＝中央でも「左端」「中央」「右端」を別々に3断面で作図



大梁リスト 1:50

階	符号	G1		G11	
	位置	左端・中央	右端	左端	中央・右端
2FL	位置				
	B x D	500x850		500x850	
	上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25
	下端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25
	あばら筋	□-D13 @150		□-D13 @150	
	腹筋	2-D10		2-D10	
	備考				

Ver.4：左端＝中央を1つにまとめ「左端・中央」＋「右端」の2断面で作図

鉄骨部材リスト：鋼材記号囲み△の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図設定] - [断面リスト作図設定] / [文字リスト作図設定] - [共通タブ]

鉄骨材種に入力した鋼材種と一致した場合、型钢記号を指定した記号で囲んで作図することができます。
△および二重△を追加し、断面リスト・文字リストの双方で作図できるようにしました。

共通	梁位置名称	柱	梁	ブレース	一般壁	地下壁	スラブ	杭	杭集計
タイトル表示		表示する							
タイトル欄高さ		mm		8					
図面枠とタイトルのアキ		mm		1					
鉄骨材種	形鋼の頭文字を○で囲む材種								
	形鋼の頭文字を□で囲む材種								
	形鋼の頭文字を◇で囲む材種								
	形鋼の頭文字を△で囲む材種			SM400A					
	形鋼の頭文字を二重○で囲む材種								
	形鋼の頭文字を二重□で囲む材種								
	形鋼の頭文字を二重◇で囲む材種								
鉄骨材種を鋼材リストに()表示する		表示しない							

[共通タブ]「形鋼の頭文字を△で囲む材種」に SM400A を指定

大梁リスト			
階	符号	位置	断面
R	G1	全断面	H -600x200x11x17 (SN400B)
	G11	全断面	H -600x200x11x17 (SM400A)
3	G1	全断面	H -600x200x11x17 (SN400B)
	G11	全断面	H -600x200x11x17 (SM400A)
2	G1	全断面	H -600x200x11x17 (SN400B)
	G11	全断面	H -600x200x11x17 (SM400A)

材種を（ ）で表示



大梁リスト			
階	符号	位置	断面
R	G1	全断面	H -600x200x11x17
	G11	全断面	 -600x200x11x17
3	G1	全断面	H -600x200x11x17
	G11	全断面	 -600x200x11x17
2	G1	全断面	H -600x200x11x17
	G11	全断面	 -600x200x11x17

SM400A の型钢記号を△で囲んで作図

大梁文字リスト：継手符号列の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図設定] - [文字リスト作図設定] - [梁タブ]

符号を縦並び、横並びとした場合、それぞれで設定が可能です。

継手符号欄の幅＝0とした場合、項目自体の作図が行われません。

共通		梁位置名称	柱	梁	ブレース	一般壁	地下壁	スラブ	杭	杭集計表	モ
図面タイトル					大梁					大梁リスト	
					片持梁					片持大梁リスト	
					小梁					小梁リスト	
					片持小梁					片持小梁リスト	
階と符号を縦並びで描く					する						
表示形式	符号が横並びの場合				備考欄を設ける					する	
					断面数の行数で作図					する	
					断面行数		行数			1	
					階数欄		幅	mm	25		
					位置欄		幅	mm	25		
					文字リスト欄		幅	mm	50		
					継手符号欄		幅	mm	20		
					備考欄		幅	mm	25		
					符号欄		高さ	mm	12		
					文字欄		高さ	mm	10		
	符号が縦並びの場合				予備欄数					0	
					備考欄数					0	
					階数欄		幅	mm	15		
					符号欄		幅	mm	15		
					位置欄		幅	mm	15		
					文字リスト欄		幅	mm	40		
					継手符号欄		幅	mm	20		
					備考欄		幅	mm	10		
					項目欄		高さ	mm	8		
					文字欄		高さ	mm	8		

[梁タブ] 符号が横並び／縦並びの場合の継手符号欄 幅

大梁リスト					
階	符号	位置	断面	継手符号	
R	G1	全断面	H -600x200x11x17	JG1	
	G11	全断面	 -600x200x11x17	JG1	
3	G1	全断面	H -600x200x11x17	JG1	
	G11	全断面	 -600x200x11x17	JG1	
2	G1	全断面	H -600x200x11x17	JG1	
	G11	全断面	 -600x200x11x17	JG1	

符号が縦並びの場合

大梁リスト						
	G1		継手符号	G11		継手符号
R	全断面	H -600x200x11x17	JG1	全断面	 -600x200x11x17	JG1
3	全断面	H -600x200x11x17	JG1	全断面	 -600x200x11x17	JG1
2	全断面	H -600x200x11x17	JG1	全断面	 -600x200x11x17	JG1

符号が横並びの場合

文字リスト：ダミーフロアを作図対象としない変更

操作メニュー：SIRBIM [建物形状] - [ダミーフロア] / [通り軸省略]

SIRBIM でダミーフロアまたは通り軸省略を設定した階を、文字リストに作図しないよう対応しました。

ダミーフロア [Sample_S]

表示倍率 120 %

階	層名	階高	レベル	所属層
Z4	RFL	3000	8000	
Z3	2'FL	1000	5000	D
Z2	2FL	4000	4000	
Z1	1FL	-	0	

[Z0層の配置設定]
Z0層の配置を有効にすると、Z0層以下の部材を配置可能になります。
・スラブ、小梁、雑壁
☐ 有効にする
Z0-Z1間の高さ 2000 [mm]

確定(D) 閉じる(C)

ダミーフロアの設定（赤枠：所属層 D を設定した行）

通り軸省略 [Sample_S]

表示倍率 120 %

X軸	X軸名	省略	Y軸	Y軸名	省略	Z軸	Z軸名	省略
X1	X1	☐	Y1	Y1	☐	Z4	RFL	☐
X2	X2	☐	Y2	Y2	☐	Z3	2'FL	☒
X3	X3	☐	Y3	Y3	☐	Z2	2FL	☐
						Z1	1FL	☐

確定(D) 閉じる(C)

通り軸省略の設定

構造図：リスト図

1/1 再作図(R) 印刷(P) CAD出力 閉じる(C)

階	C1	C2
2	☐ -400x400x16 (BCR295)	☐ -400x400x12 (BCR295)
1	☐ -400x400x16 (BCR295)	☐ -400x400x12 (BCR295)

→ ダミー層（作図対象外）

柱リスト（作図例）

構造図：リスト図

1/1 再作図(R) 印刷(P) CAD出力 閉じる(C)

階	符号	位置	断面
R	G1	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G2	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G11	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
2	G12	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G1	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G2	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G11	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)
	G12	端部	SH -650x250x9x16 (SN400B)
		中央	SH -650x250x9x16 (SM490A)

→ ダミー層（作図対象外）

大梁リスト（作図例）

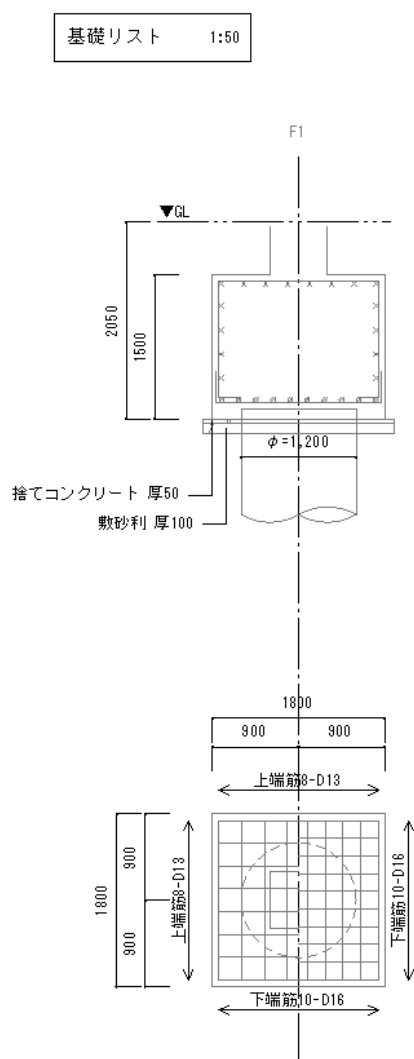
基礎断面リスト：柱型表示高さの追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [断面リスト作図設定] - [基礎タブ]

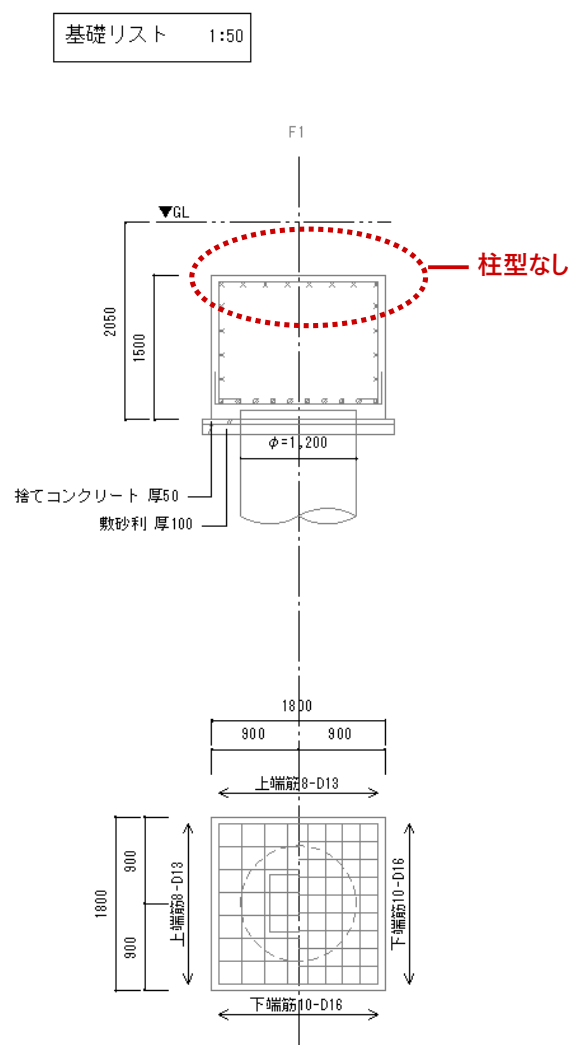
柱型表示高さに 0mm を入力できるようにしました。柱型を作図しない基礎リストとして作図されます。

共通	梁位置名称	基礎	杭	柱	梁	ブレース	壁	地下壁	柱継手	梁継手	鉄筋名称
2本以上 杭基礎	上端筋力ギ	作図		する							
		長さ	d	15							
	下端筋力ギ	作図		する							
		長さ	d	20							
		フック		180度フック							
		フック長さ	d	10							
	柱型表示高さ		mm	0							
	地業の出（実寸）		mm	100							

[基礎タブ] 柱型表示高さに「0」を入力



柱型表示高さ「1500」：柱型を作図



柱型表示高さ「0」：柱型を作図しない

符号別リスト幅設定：基礎・杭の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [リスト図設定] - [符号別リスト幅設定]

基礎リスト、杭リストについて、符号ごとまたは全符号一括で枠幅を設定することができます。

本設定では、レイアウト以外で作図した個別のリスト図について符号の並び順、変更などを行うことができます。

断面リスト作図設定で枠幅を自動計算「しない」とした場合に有効です。

部材種別	No	符号	構造	断面数	断面枠幅(50)[mm]
基礎	1	F1			60
杭	2	F2			60
基礎柱	3	F1a			60
柱	4	F2a			60
間柱	5	F3			60

部材種別「基礎」の断面枠幅

部材種別	No	符号	構造	断面数	断面枠幅(50)[mm]
基礎	1	P1			40
杭	2	P2			40
基礎柱	3	P3			40

部材種別「杭」の断面枠幅

構造図：図面縮尺表示「/」の追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [文字・寸法設定]

リスト図・構造図の縮尺表示を「：」から「/」へ切り替える設定項目を追加しました。

図面の縮尺表示

縮尺表記文字 (ex. 1/100) ☐ / ☐ :

[図面の縮尺表示] 縮尺表記文字を「/」「：」から選択

構造図

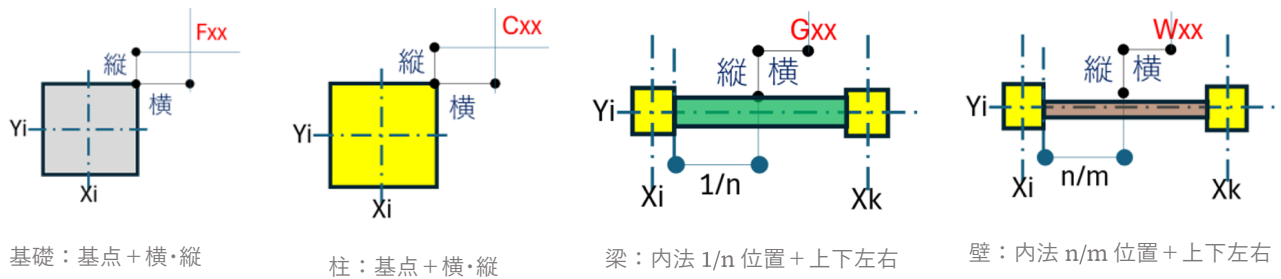
構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定を追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図設定] - [構造図初期値設定] - [符号の位置設定]

伏図、軸組図、架構詳細図について、各部材の符号の作図有無、符号作図の基点位置、基点からの符号までのオフセットを指定して各種構造図に反映できます。

伏図		伏図(レベル)		軸組図		詳細図			
部材	図面名	分類	符号	部材方向	基点位置		基点からの オフセット		
		属性	作図		点材	線材方向			
						幅	長手	横(mm)	縦(mm)
基礎符号	基礎伏図		する ▼		右上			2.5	1.5
	杭伏図		する		右上			2.5	1.5
	一般階伏図		する		右上			2.5	1.5
杭符号	杭伏図		する		右上			2.5	1.5
柱符号	基礎伏図		する		右上			0.5	1.0
	一般階伏図		する		右上			0.5	1.0
	伏図形式柱リスト		する		右上			3.0	3.0
	柱芯関係図		する		右上			0.5	1.0
	柱梁芯線図(RC)		する	X	中央				
梁・小梁符号	基礎伏図		する	X		上	1/2	0.0	1.0
			する	Y		左	1/2	0.0	1.0
	一般階伏図		する	X		上	1/2	0.0	1.0
			する	Y		左	1/2	0.0	1.0
	柱梁芯線図(RC)		する	X		上	1/2	0.0	1.0
			する	Y		左	1/2	0.0	1.0
壁符号	一般階伏図		する	X		上	2/3	0.0	1.0
			する	Y		左	2/3	0.0	1.0
ブレース	一般階伏図	水平ブレース	する			上	2/3	0.0	1.0
床符号	一般階伏図	一般(上側)	する		中央			0.0	2.0
		基礎(下側)	する		中央			0.0	-2.0

[伏図タブ] 部材ごとの符号作図・基点位置・基点からのオフセット



構造図初期値設定：レベル表示の位置・付加記号の指定を追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図設定] - [構造図初期値設定] - [伏図（レベル）タブ]

伏図における梁とスラブのレベル表示の位置を、符号に対して上下左右で変更できるようにしました。

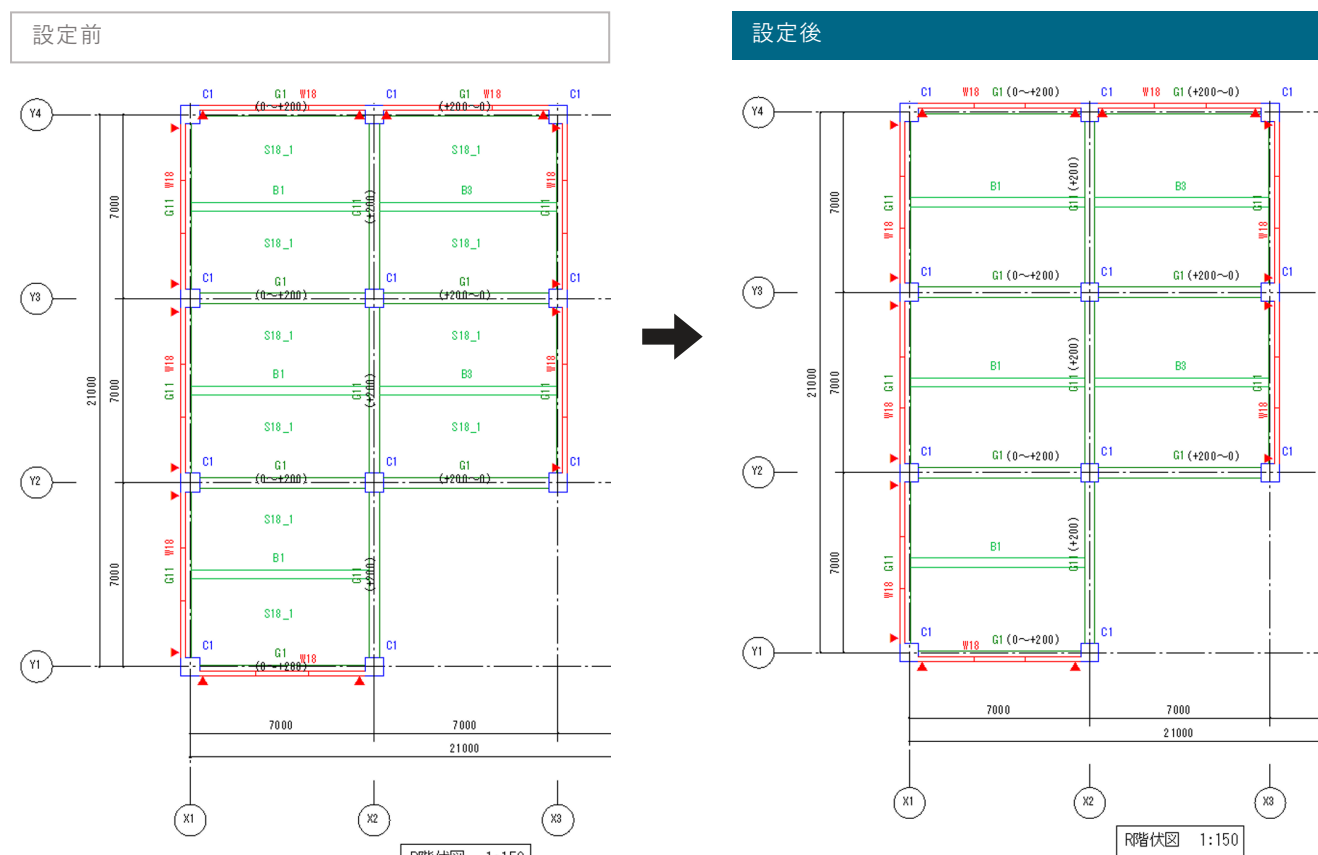
あわせて、レベル表示に付加する記号を「（ ）」「< >」「[]」「なし」から選択できます。

下図は RC 造の R 階伏図（見上げ）の例で、梁レベル表示を符号の右へ変更し、

壁符号の位置を変更して重なりを回避、スラブ符号を非表示としています。

部材	図面名	符号からの表示位置	両端付加文字
梁	一般階伏図	右 ▼	()
小梁	一般階伏図	右	()
スラブ	一般階伏図	下	()

[伏図（レベル）タブ] 符号からの表示位置と両端付加文字

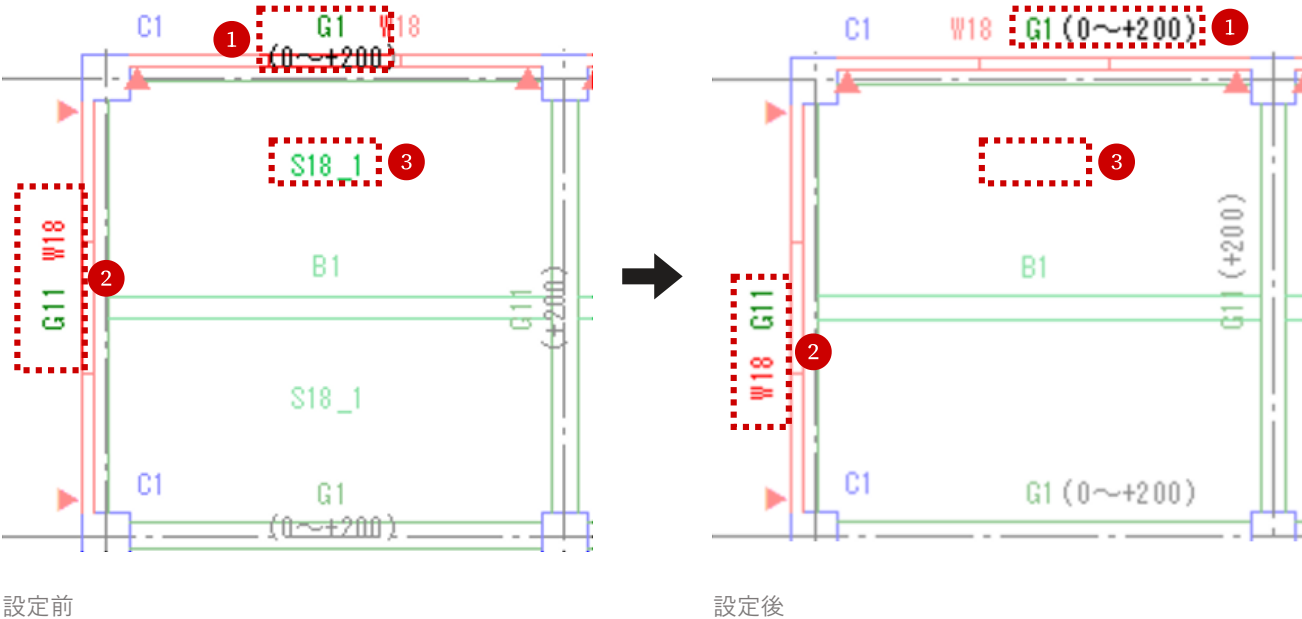


梁のレベル表示は符号の下。壁符号 W18 が梁符号 G11 と重なり、スラブ符号 S18_1 も表示される。

レベル表示を符号の右へ。壁符号をずらして重なりを回避し、スラブ符号は非表示。

構造図初期値設定：レベル表示の位置・付加記号の指定（拡大比較）

R 階伏図の X1～X2・Y3～Y4 区画を拡大し、設定前後の違いを示します。



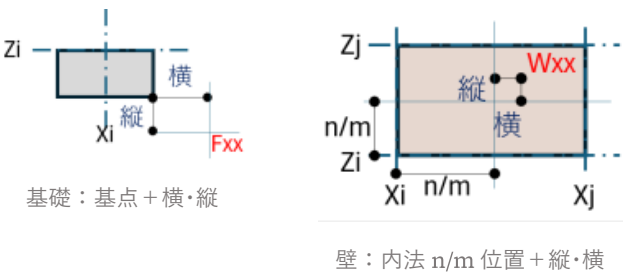
- ① 梁のレベル表示を符号の下から**符号の右**へ変更し、1 行に収めました。
- ② 壁符号 W18 の位置を変更し、梁符号 G11 との**重なりを回避**しました。
- ③ スラブ符号 S18_1 を**非表示**としました。

構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定（軸組図）

軸組図についても、部材ごとに符号の作図有無・基点位置・基点からのオフセットを指定できます。

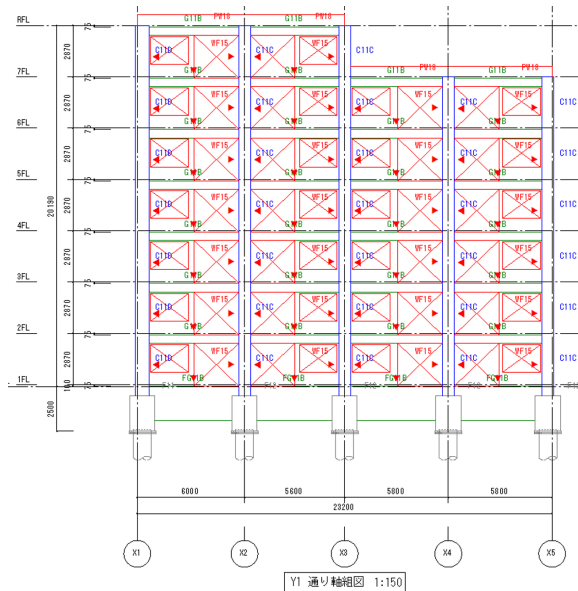
伏図 伏図(レベル) 軸組図 詳細図									
部材	図面名	分類	符号	部材方向	基点位置		基点からの オフセット		
		属性	作図		点材	線材方向			
						幅	長手	横(mm)	縦(mm)
基礎符号	軸組図		する		右上			2.5	1.5
柱符号	軸組図		する			右	1/2	2.0	0.0
間柱符号	軸組図		する			右	1/2	2.0	0.0
梁符号	軸組図		する			上	1/2	0.0	1.0
小梁符号	軸組図		する			上	1/3	2.0	0.0
壁符号	軸組図		する			4/5	4/5	0.0	0.0
ブレース	軸組図	鉛直ブレース	する			上	1/2	0.0	1.0

〔軸組図タブ〕 部材ごとの符号作図・基点位置・基点からのオフセット

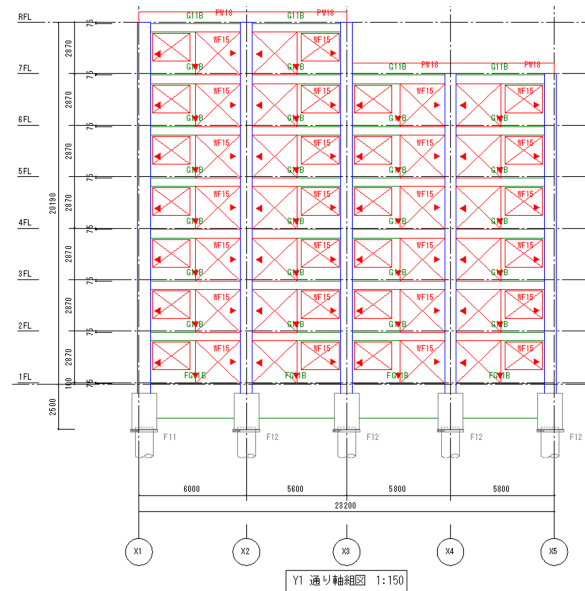


構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定（軸組図の設定前後）

Y1 通り軸組図の例です。基礎（フーチング）符号の基点を右上から右下へ変更し、柱符号は作図しない設定としています。

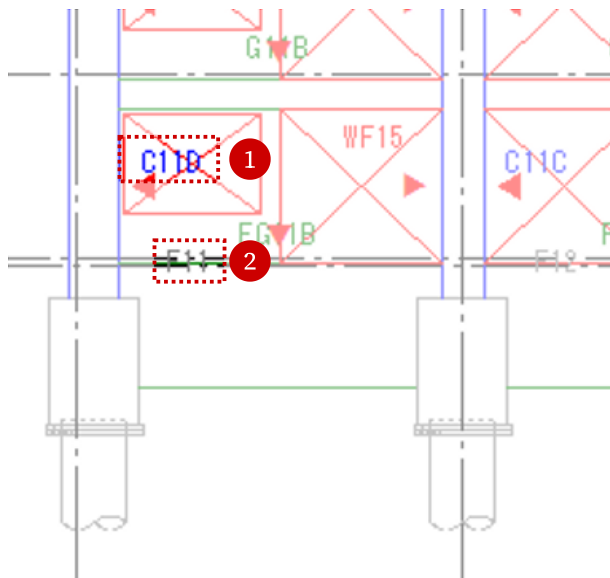


設定前

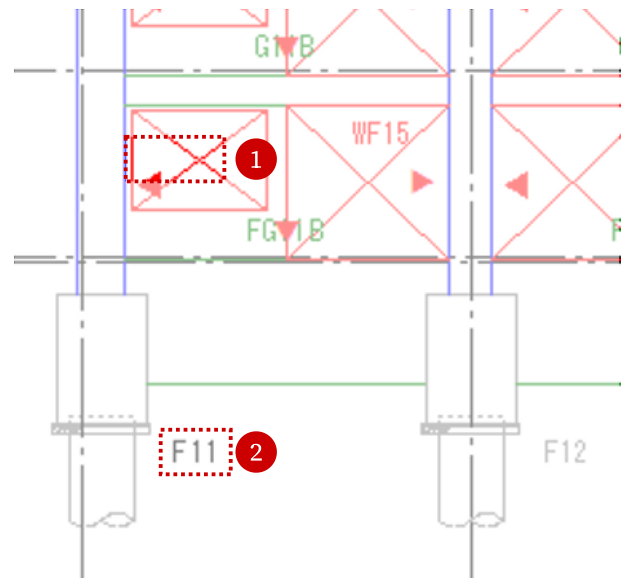


設定後

変更箇所の拡大比較（X1～X3 通り・1FL 周辺）



設定前



設定後

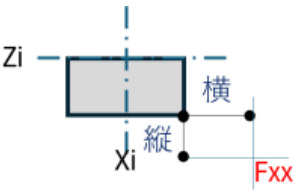
- ① 柱符号を作図しない設定に変更しました。
- ② 基礎（フーチング）符号の基点を右上から右下へ変更し、1FL の線との重なりを解消しました。

構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定（詳細図）

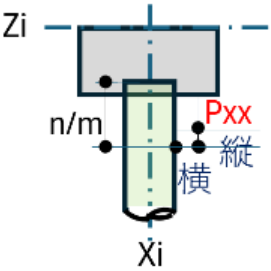
架構詳細図についても、RC 詳細図・S 詳細図それぞれで部材ごとに符号の作図有無・基点位置・基点からのオフセットを指定できます。

部材	図面名	分類	符号	部材方向	基点位置			基点からの オフセット	
		属性	作図		点材	線材方向		横(mm)	縦(mm)
						幅	長手		
基礎符号	RC詳細図		する ▼		右上			2.5	1.5
	S詳細図		する		右上			2.5	1.5
杭符号	RC詳細図		する			右	1/2	1.0	0.0
	S詳細図		する			右	1/2	1.0	0.0
柱符号	RC詳細図		する			右	1/2	2.0	0.0
	S詳細図		する			右	1/2	2.0	0.0
間柱符号	RC詳細図		する			右	1/2	2.0	0.0
	S詳細図		する			右	1/2	2.0	0.0
梁符号	RC詳細図		する			上	1/2	0.0	1.0
	S詳細図		する			上	1/2	0.0	1.0
小梁符号	RC詳細図		する			上	1/3	2.0	0.0
	S詳細図		する			上	1/3	2.0	0.0
壁	RC詳細図		する			4/5	4/5	0.0	0.0
ブレース	S詳細図	鉛直ブレース	する			上	1/2	0.0	1.0

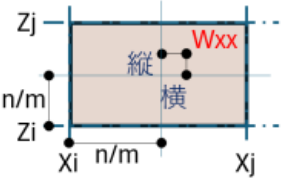
[詳細図タブ] RC 詳細図・S 詳細図ごとの符号作図・基点位置・基点からのオフセット



基礎：基点＋横・縦



杭：内法 n/m 位置＋横・縦

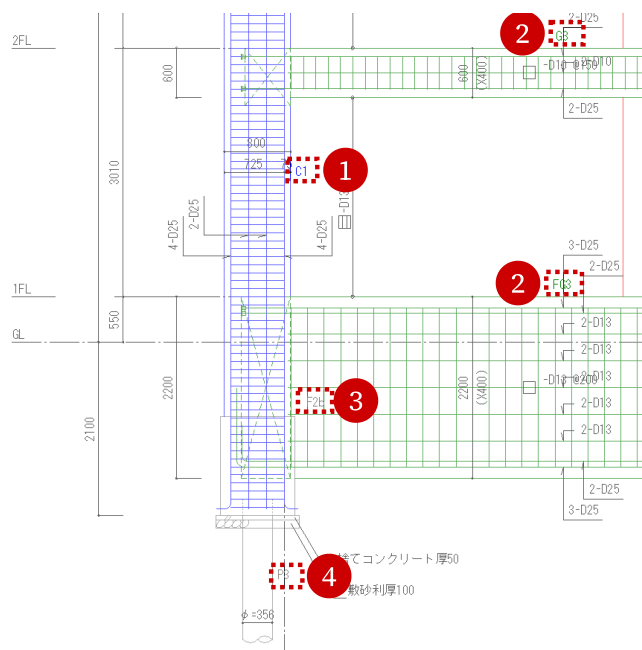


壁：内法 n/m 位置＋縦・横

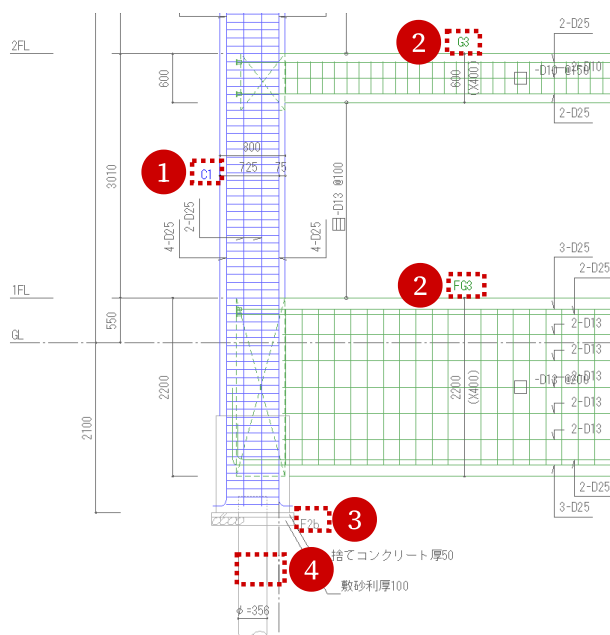
構造図初期値設定：符号位置の初期位置の指定（詳細図の設定前後）

RC 架構詳細図の例です。部材ごとの設定により、符号の作図有無と基点位置が変わります。

設定前



設定後



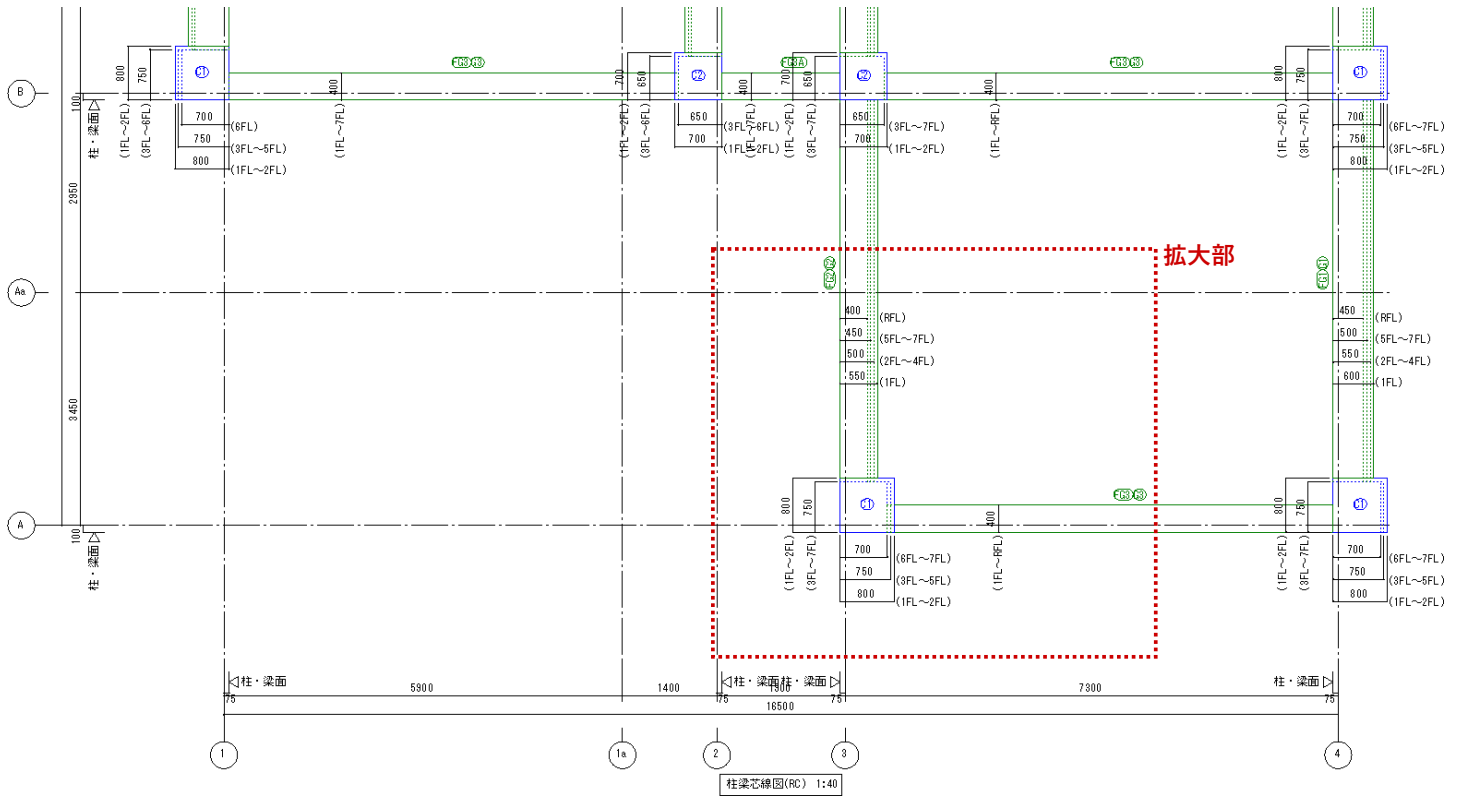
- ① 柱符号の基点位置を、部材に対して右から左へ変更しました。
- ② 梁符号の位置を変更しました（部材の中央寄りへ）。
- ③ 基礎符号の基点を右上から右下へ変更しました。
- ④ 杭符号を作図しない設定に変更しました。

伏図：柱梁芯線図の作図

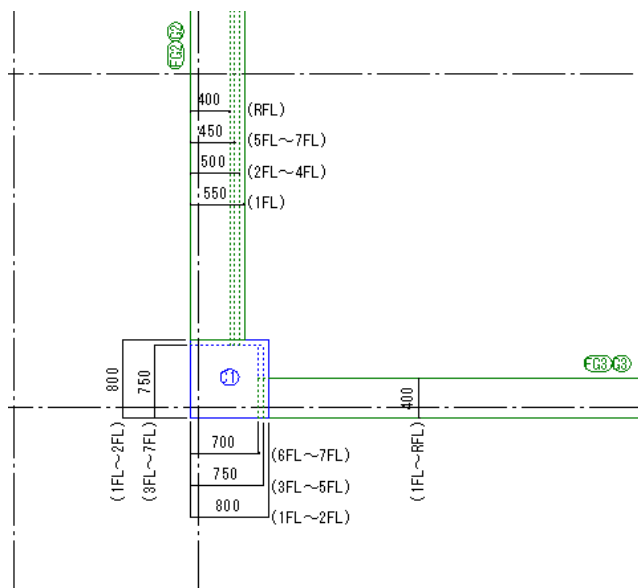
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図]

部材符号を伴う柱梁芯線図を新たに作図できるようになりました。

柱・梁の芯と躯体面の関係、通り軸からの寄り寸法などを階別に確認できるため、
躯体の芯ずれチェックにご利用いただけます。



柱梁芯線図 (RC) の作図例



3通り・A～Aa 間の拡大

柱・梁の躯体線は、**作図階の躯体線を実線で、その他の階の躯体線を破線**で作図します。階ごとに断面が変わる箇所では、寸法を階の範囲（例：1FL～2FL、3FL～5FL）とともに引出して表示します。

—— 作図階の躯体線

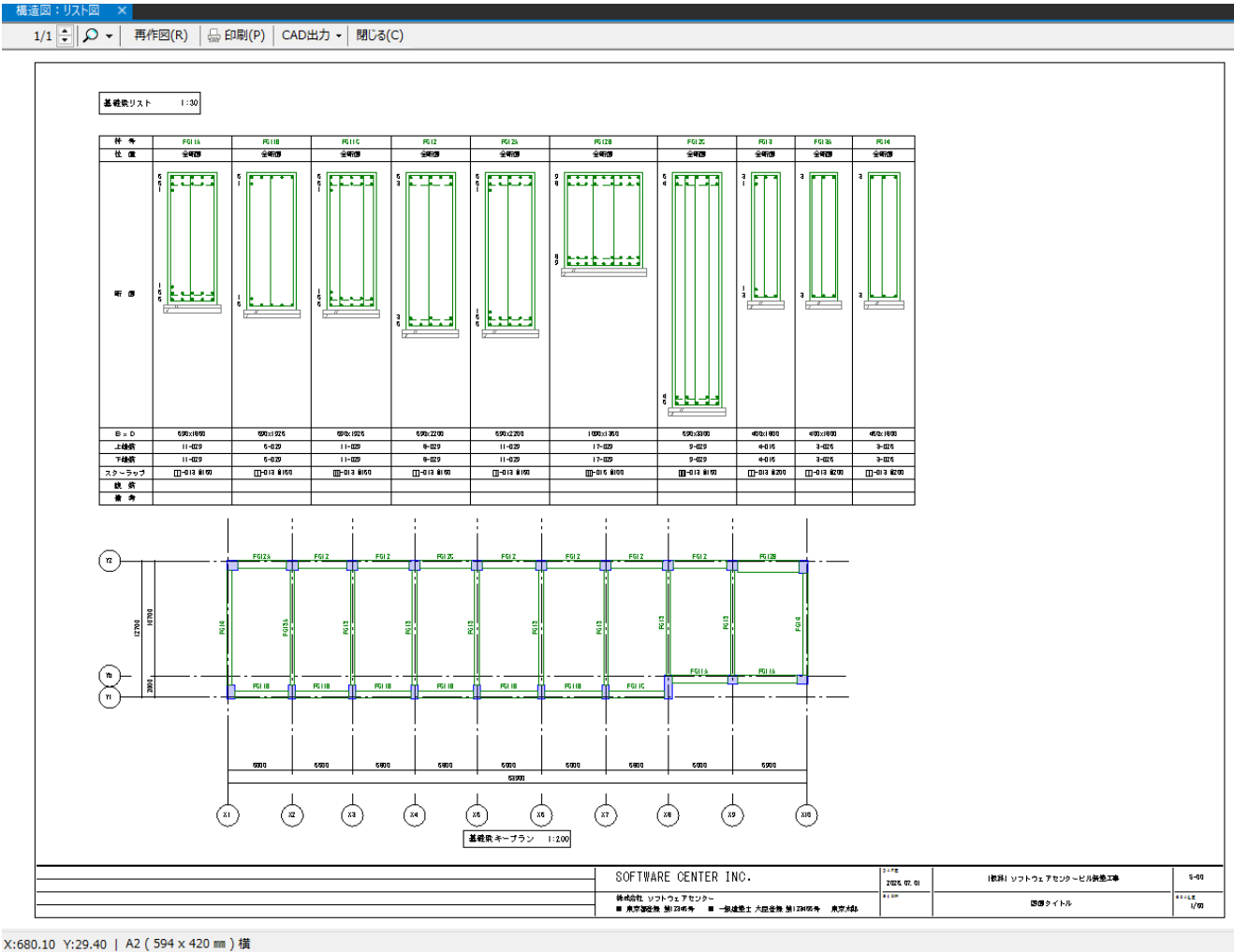
----- その他の階の躯体線

柱・梁キープランの作図

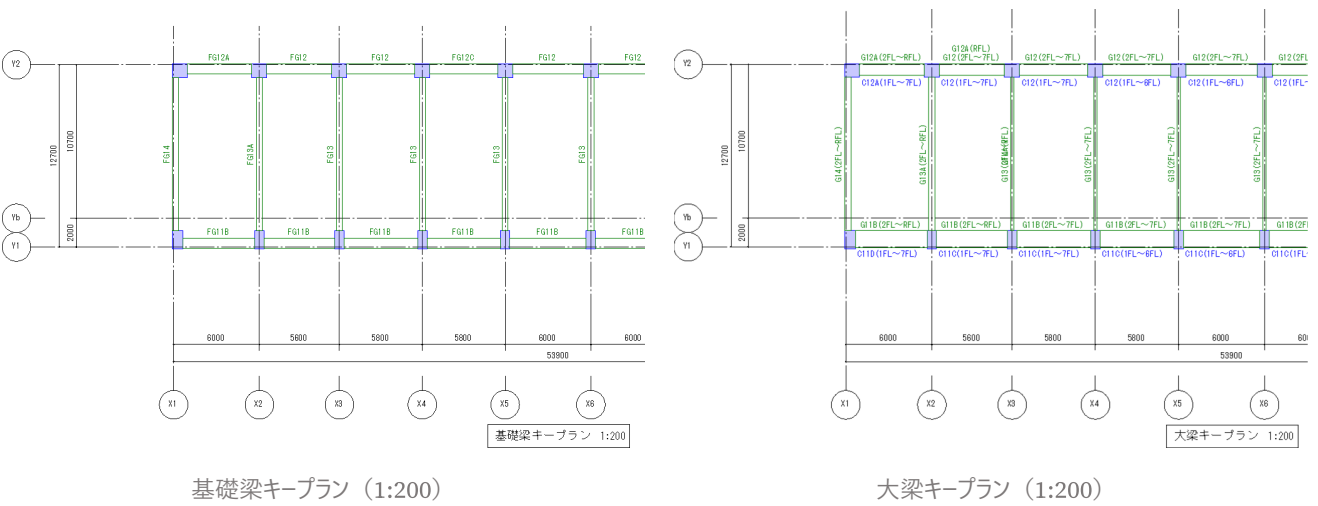
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図]

柱梁の配置を俯瞰するキープランを出力できるようになりました。

リスト図レイアウトにて、基礎梁リストとキープランを1枚の用紙に収めることも可能です。



基礎梁リストと基礎梁キープランを1枚に収めたレイアウト例

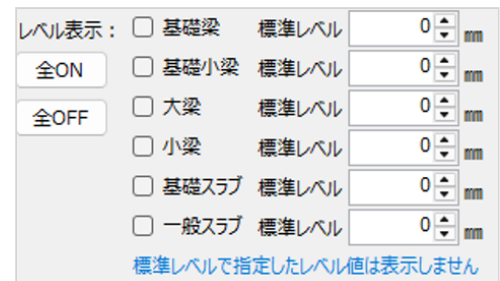
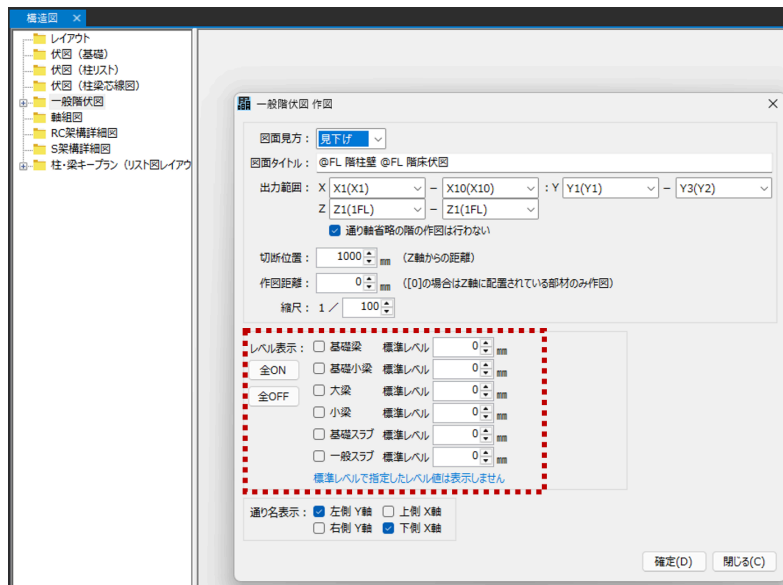


伏図：レベル表示設定に一括ON／OFF追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図]

伏図のレベル表示について、作図時の初期値を ON／OFF で切り替えられるボタンを追加しました。

レベル表示設定は、ON とした場合に標準レベルと一致したレベルを表示しない設定です。



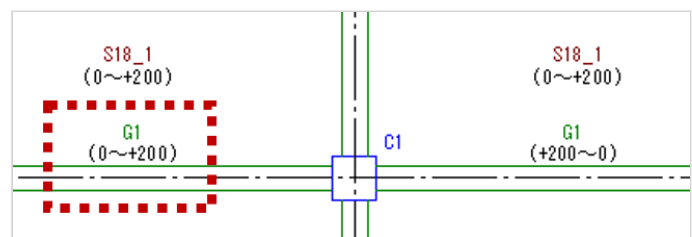
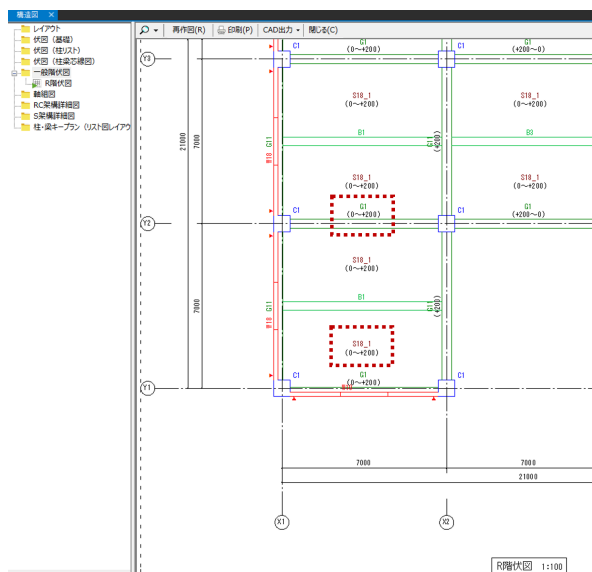
拡大：[全ON] / [全OFF] で6部材のチェックを一括切替

レベル表示の [全ON] / [全OFF] ボタンと標準レベル

伏図：勾配の表現を「～」に変更

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図]

勾配の表現を「→」から「～」に変更しました。スラブのレベル表示も同様の扱いとなります。



拡大：スラブ・大梁とも「0～+200」「+200～0」と表記

勾配のあるスラブ・梁のレベル表示 (0～+200)

S造伏図：板厚表現の選択を追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図設定] - [伏図タブ]

鉄骨造の伏図で BOX 柱の板厚を作図できるようになりました。

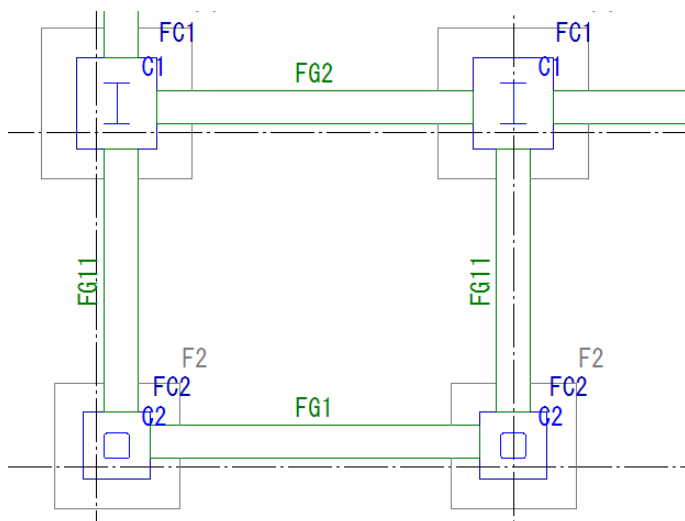
2重線で作図した場合は、柱定義の板厚で作図します。

共通	伏図	詳細図
図面タイトル	基礎伏図	基礎伏図
	杭伏図	杭伏図
	伏図形式柱リスト	@FL階伏図形式柱リスト
	柱芯関係図	柱芯関係図
	アンカープラン	伏図形式柱脚リスト
	柱梁芯線図(RC)	柱梁芯線図(RC)
	一般階伏図 (見下げ)	@FL階梁床伏図
図面見方	一般階伏図 (見上げ)	@FL階柱壁・@FL階梁床伏図
	図面縮尺	見下げ 100
作図	RC部材	RC部材の包絡 包絡しない
	S部材	BOX柱の板厚 板厚を指定
		S柱 2重線(=)にする
		S小梁 2重線(=)にする
	水平ブレース	2重線(=)にする

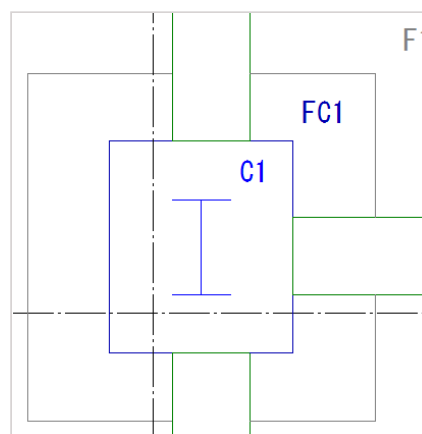
S柱	2重線(=)にする
----	-----------

拡大：S柱を「2重線（＝）」にする

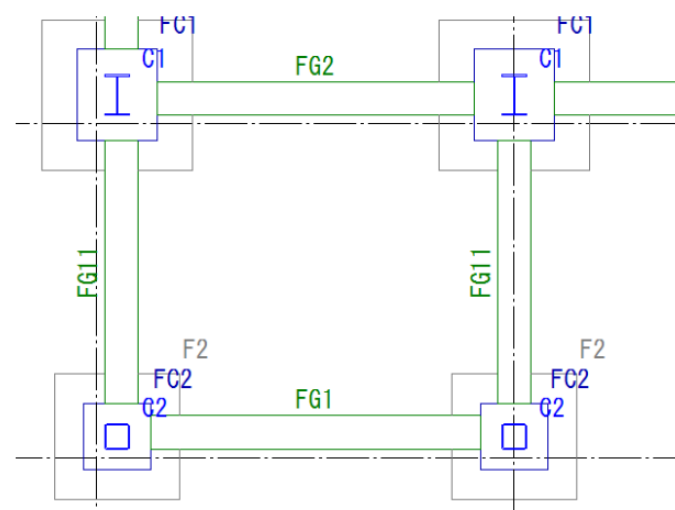
〔伏図タブ〕S部材「S柱」の設定



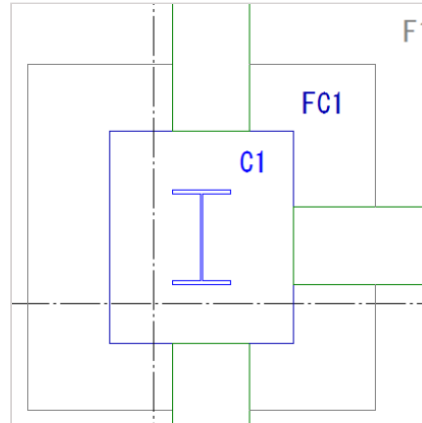
Ver.3：BOX柱を単線で作図



拡大：柱を単線で作図



Ver.4：柱定義の板厚で2重線作図



拡大：板厚分の2重線で作図

架構詳細図：直交梁の表現を変更

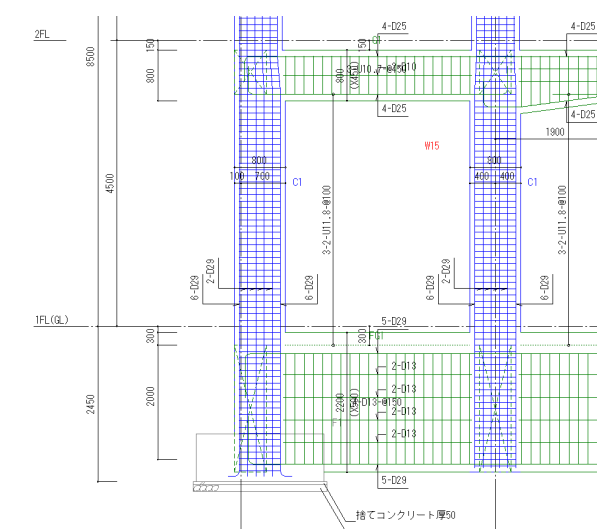
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図設定] - [詳細図タブ]

直交梁の表示方法に□と×による表現を追加しました。

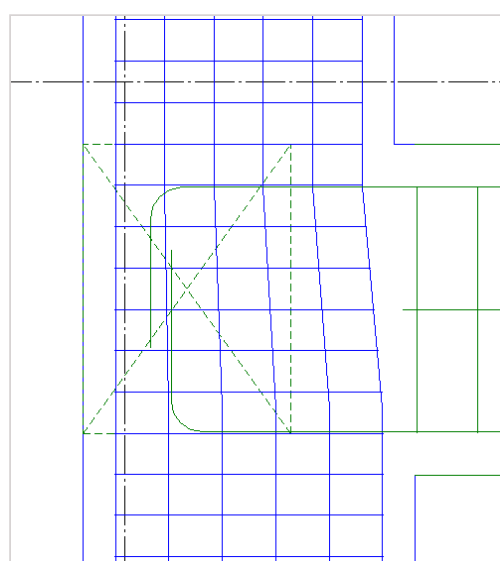
RC梁・S梁それぞれで作図の有無と線種（破線／実線）を指定できます。

共通 伏図 軸組図 詳細図			
図面タイトル	RC架構詳細図	@XY 通り配筋詳細図	
	S架構詳細図	@XY 通り鉄骨詳細図	
図面縮尺	1/	50	
作図	直交梁	RC梁	作図する
		線種	破線
	S梁	作図	作図する
		線種	実線

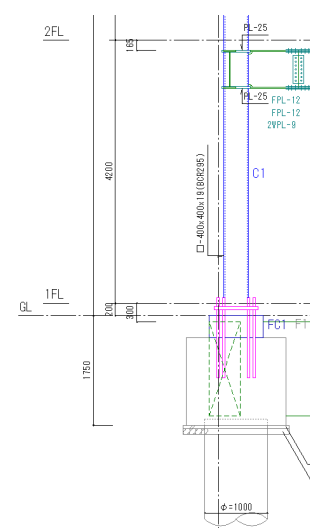
[詳細図タブ] 直交梁：RC梁＝破線／S梁＝実線で作図



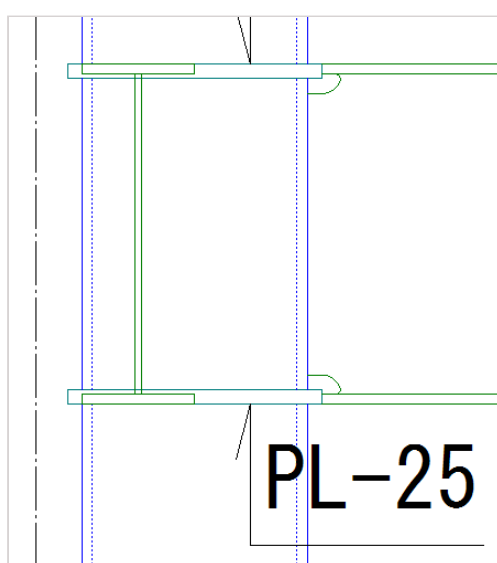
RC架構詳細図：直交梁を破線の□と×で作図



拡大：破線の□と×



S架構詳細図：直交梁を実線で作図



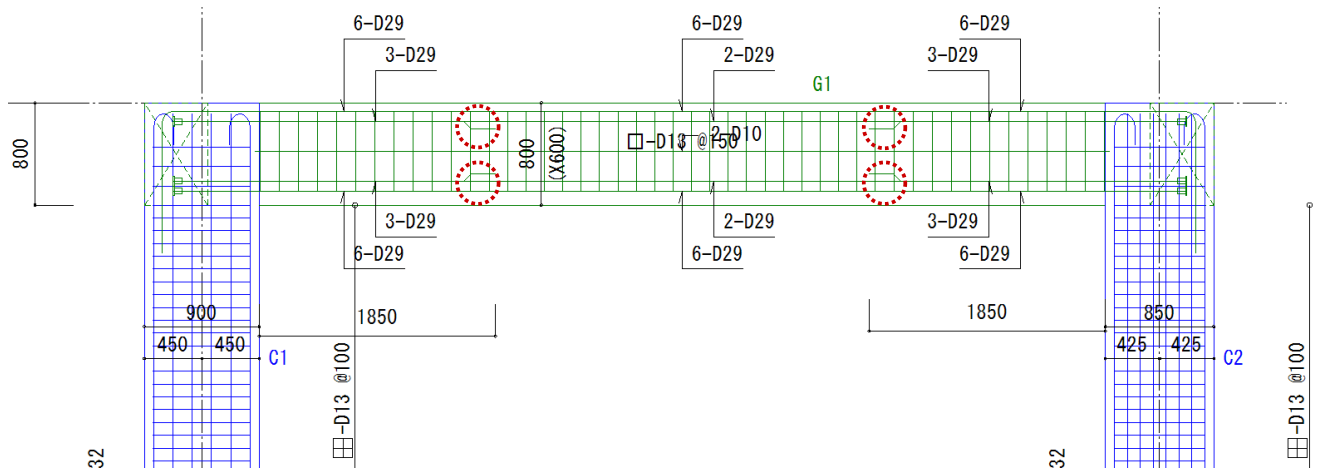
拡大：直交梁を実線で作図

RC架構詳細図：梁2・3段筋のヒゲ筋の作図を追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図] - [RC架構詳細図]

梁主筋 2・3 段筋のヒゲ筋作図に対応しました。

ヒゲの向きは、本数の多い側から少ない側へ向かう作図に変更しています。



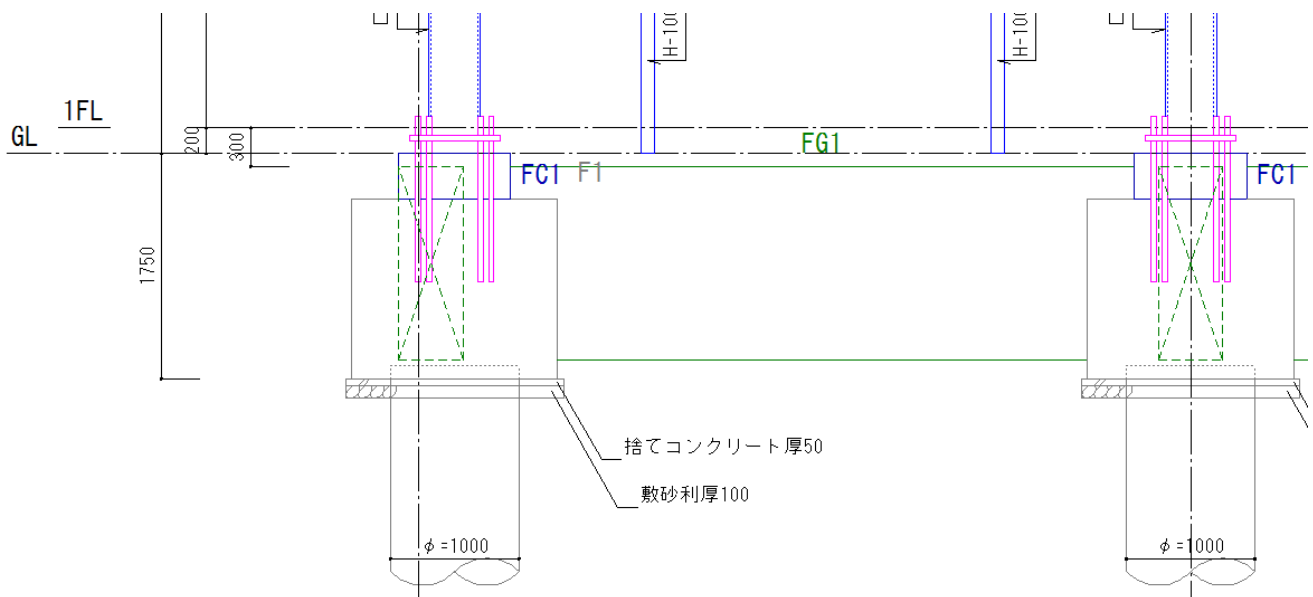
赤丸部：2・3段筋のヒゲ筋（本数の多い側→少ない側へ向く）

S架構詳細図：基礎部分RC部材（基礎、基礎柱、基礎梁）の作図に対応

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図] - [S架構詳細図]

柱脚を陰線消去せず、基礎部分の躯体線が見える表現に対応しました。

また、基礎梁を作図するよう対応しました。



S架構詳細図：柱脚・基礎（FC1・F1・杭）の躯体線と基礎梁 FG1 を作図

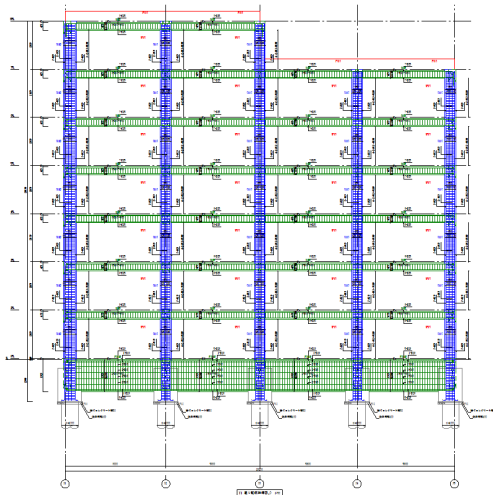
架構詳細図：層・フレームの分断に対応

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [構造図] - [プロパティ設定]

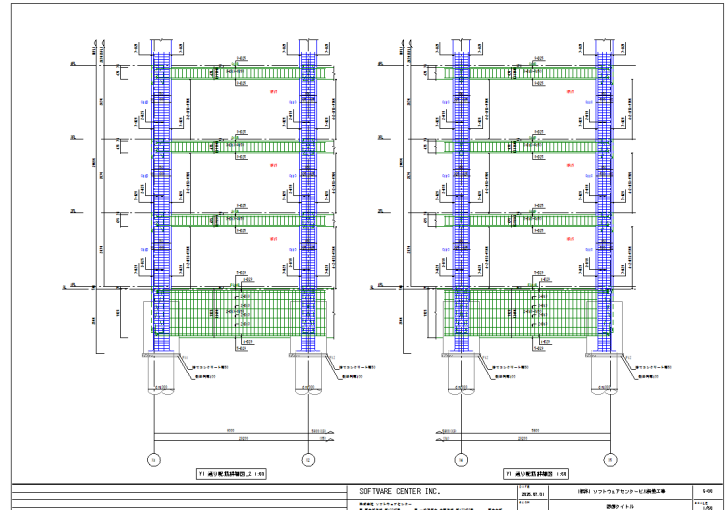
長大なフレームを分断して作図できるようになりました。層方向の分断にも対応しています。

出力範囲の開始／終了軸（X軸・Z軸）を指定して、必要な範囲だけを作図します。

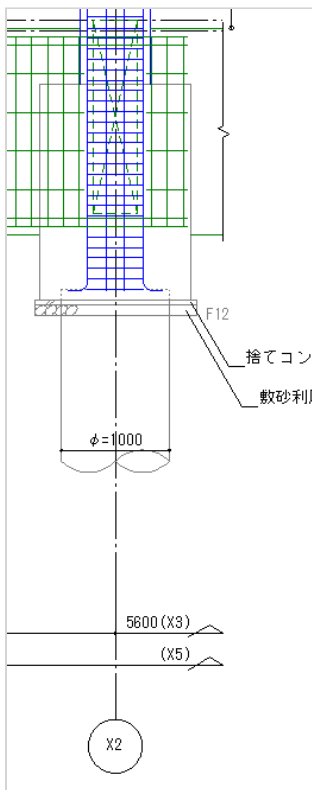
層やフレームを分断した際には、躯体部分や通り軸線に省略記号を作図します。



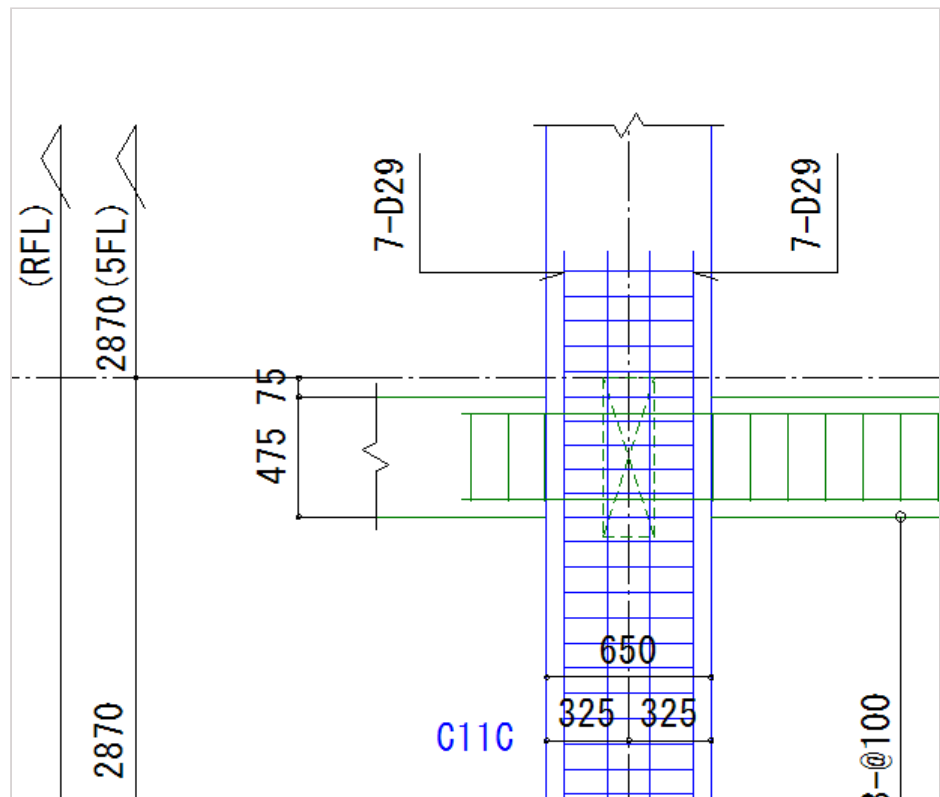
全体のフレーム



指定したスパン・層の範囲だけを分断して作図



拡大：分断したスパン端部
(X2 側)



拡大：層方向の分断位置（5FL 上部で切断）

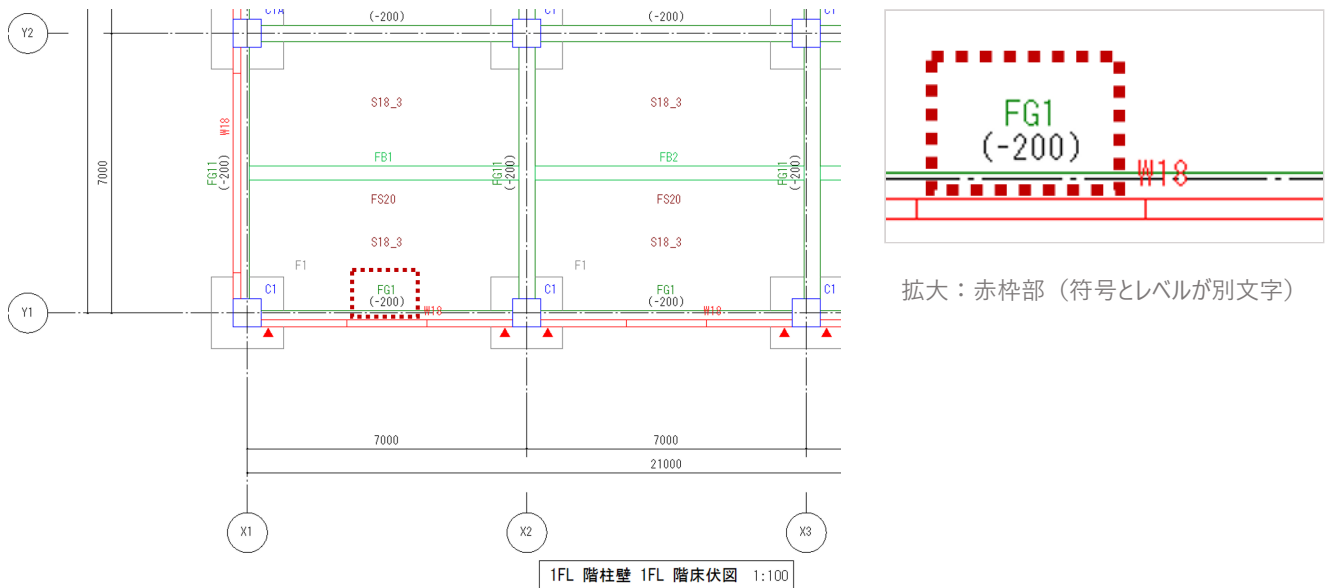
CAD出力

AutoCAD変換：符号とレベルのレイヤー分け

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [CAD出力設定]

符号とレベルを別々の文字として出力し、レベル値は部材別の寸法値レイヤーに割り当てます。

レベルは括弧書きで符号の下、躯体線から 0.1mm 離して作図します。

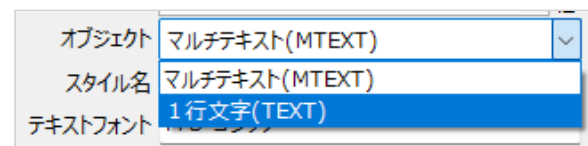


符号（FG1）とレベル（-200）が別文字・別レイヤーで出力される

AutoCAD変換：文字オブジェクト項目名の変更

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [CAD出力設定] - [AutoCAD出力設定]

文字のオブジェクト欄の項目名を「マルチテキスト（MTEXT）」「1行文字（TEXT）」の表記に変更しました。



拡大：マルチテキスト（MTEXT）／1行文字（TEXT）

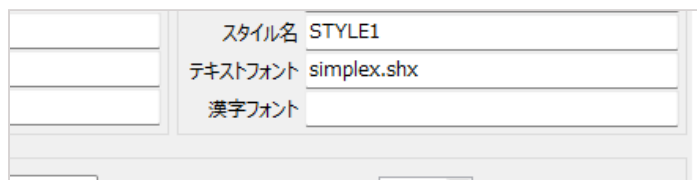
文字のオブジェクト欄の選択肢

AutoCAD変換：ビッグフォントへ対応

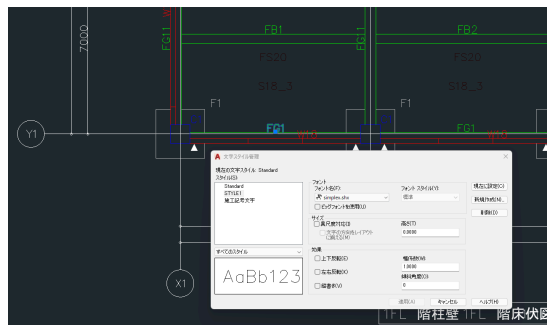
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [CAD出力設定] - [AutoCAD出力設定]

テキストフォント（SHX フォント）に加え、漢字フォント（ビッグフォント）の指定に対応しました。

指定した内容は文字スタイルとして出力され、AutoCAD 側の [文字スタイル管理] でフォント・ビッグフォントとして読み込まれます。



SIRBIM：テキストフォント／漢字フォントの指定（拡大）



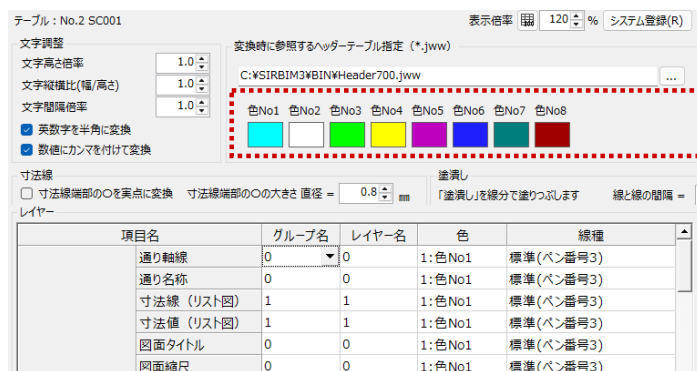
AutoCAD：出力された文字スタイル

Jw_cad変換：色No対応色の可視化

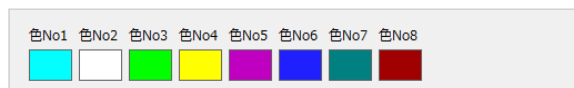
操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [CAD出力設定] - [Jw_cad出力設定]

SIRBIM インストール先の BIN フォルダに保存されたヘッダーファイル「Header700.jww」に基づき、

Jw_cad出力設定の色番号を可視化しました。



ヘッダーテーブル指定と色No1～8の表示



拡大：色No1～8の対応色

DRA-CAD変換：レイヤー名を追加

操作メニュー：SIRBIM [構造図作図] - [CAD出力設定] - [DRA-CAD出力設定]

レイヤー名に指定できる番号を 1～255 まで拡張しました。

レイヤー		項目名	グループ名	レイヤー名 (1～255)	色	線種
		通り軸線	0	1	青	細線(ペン番号1)
		通り名称	0	3	黄	太線(ペン番号2)

[DRA-CAD出力設定] レイヤー名に 1～255 の番号を指定できます

